

研修資料

話し合い



家庭・学校・地域が連携し、ともに子どもを育むPTA活動の推進
～ コミュニケーションを重ねて新しいPTAの形を創り出そう～

静岡県PTA連絡協議会

は じ め に

令和7年度県P連研修資料「話し合い」が出来上がりました。

今回の特色ある17の実践事例を皆様にお届けすることができました。ご多忙な中、貴重な事例を提供していただいた執筆者の皆様ならびに関係者の方々には心より御礼を申し上げます。

本資料「話し合い」誌は、令和5・6年度のPTA活動方針「家庭・学校・地域が連携し、ともに子どもを育むPTA活動の推進～コミュニケーションを重ねて新しいPTAの形を創り出そう～」をテーマとし、各単位PTAの独自の取り組みを紹介しています。

広い静岡県内では、地域の特色や学区の事情、そこに通う児童生徒の実態やPTA会員の意識など様々な違いがあり、抱えている課題もそれぞれです。しかし、それらの根底にある「予測不可能な社会や急激な環境の変化、情報化社会への対応等多くの課題を抱えています。次世代を担う子供達のために、家庭・学校・地域等が情報を共有し、協働してよりよい教育環境をつくりあげていきたい」という願いは共通していると思います。

本誌には、そんな熱き思いのもとで、子どもたちのために創意と工夫を凝らして取り組んだ貴重な実践事例が綴られています。

本誌を令和7・8年度活動方針「家庭・学校・地域がつながり合い 子どもを育てるPTA活動の推進～新たな可能性を創造しよう、次世代へ繋ぐために～」に沿ったPTA活動の研修資料としてご活用いただけたら幸いです。

令和7年5月

静岡県PTA連絡協議会

令和5・6年度 静岡県PTA活動方針と重点

○ 活動方針

家庭・学校・地域が連携し、 ともに子どもを育むPTA活動の推進 ～コミュニケーションを重ねて新しいPTAの形を創り出そう～

(設定理由)

令和2年から猛威を振るい続けたコロナ禍は、PTA活動にも大きな影響を与えました。目に見えないウィルスを前に、従来、子どもたちのために行ってきた行事やイベントはもとより、役員会や委員会等の日常的な活動も中止や延期を余儀なくされました。

しかし、コロナ禍がもたらしたものは、PTA活動にとってマイナスになることばかりではありません。困難な状況が続く中で我慢を強いられてきた子どもたちの笑顔が見たい。そんな思いを持つ保護者が力を一つに合わせ、多くの学校で、オンラインツールを活用した行事や・イベントの実施・配信、感染対策に十分配慮した形での野外活動等、創意工夫をこらし、新たなスタイルでPTA活動が行われました。

しかしながら、対面での活動が制約を受ける中で、保護者同士のコミュニケーションが十分にとれず、PTA活動の意義について理解が十分に得られないことも増えてきました。

また、社会の中でもPTA活動に対する厳しい視線が向けられることも増え、保護者の意識も大きく変わってきています。このような状況の中で、従来のPTA活動や組織のあり方を見直し、保護者がより参加しやすくする取組みも、多くの学校で進んできています。

令和3～4年の活動方針では、サブテーマとして「今だからこそ深めよう、人と人とのつながり・絆」を掲げました。なぜ、つながりや絆を深めなければならないのか。それは、すべて子どもたちが健やかに成長する場をみんなで力を合わせて創(つく)るためではないでしょうか。未来に向かって大きくはばたく子どもたちが、楽しく充実した学校生活を過ごせるように、私たち保護者を中心に家庭・学校・地域が連携し、PTAをとりまく環境の変化にも対応しつつ、子どもたちをはぐくむ環境を整えることが大切です。

そこで、令和5～6年度の活動方針には、令和3～4年度の活動方針を継承しつつ、さらに新しい時代の中で新しいPTA活動を発展させていくという強い願いを込めました。すべては子どもたちの笑顔のために、各地区のPTA連絡協議会とも協力しながら、家庭(保護者)・学校・地域が手を取り合い、コミュニケーションを深めながらつながりの輪(和)と新しい形のPTAを創り、さらに広げていくために、静岡県PTA連絡協議会がその中心となって力を尽くしていく所存です。

○ 重点事項

領 域	重 点
1 P T A組織 と 運 営	(1) 会員意識の高揚を図ろう。 (2) 魅力ある組織と運営を目指そう。 (3) 父親の活動への積極的参加を推進しよう。
2 家 庭 教 育	(1) 「教育の原点は家庭にある」との認識に立ち、社会規範の育成・基本的生活態度の定着・思いやりの心の育成・心身の逞しさの育成等に努力しよう。 (2) 家庭・学校・地域との連携を図り、心豊かな子どもの育成に努力しよう。 (3) 子どもが心地よい居場所を持てる温かな家庭を創り、親子の絆を深めよう。
3 教 育 環 境	(1) 情報機器（P C ・携帯電話等）の正しい使い方を身に付けさせよう。 (2) 関係機関と連携し、子どもを取り巻く環境浄化に努めよう。（T V ・図書・広告等） (3) 学校・地域の（人的・自然）教育環境をよくしよう。
4 人権・共生	(1) 命の尊さ、他を思いやる豊かな心を育む活動を推進しよう。 (2) 家庭・学校・地域が連携して人権共生意識の高揚を図ろう。 (3) 他団体とも連携し、いじめや虐待・暴力を根絶しよう。
5 健康・安全	(1) 心身ともに健康な子どもを育てよう努力しよう。 (2) 子どもの食生活の向上に努力しよう。 (3) 学校・地域・警察等と連携し、子どもを危険から守ろう。（交通安全・防犯等）
6 広 報 活 動	(1) 魅力ある広報紙を工夫しよう。 (2) 会員を繋ぎ、意識を高め、役に立つ情報を提供する広報活動に努力しよう。 (3) 情報化時代に適応する多様な情報提供を工夫しよう。
7 地 域 連 携	(1) 地域の特色を生かした子どもの社会参加を支援しよう。 (2) P T A ・学校・地域を結ぶネットワークづくりに努力しよう。 (3) 子どものボランティア精神の育成を図ろう。
8 多文化共生	(1) 郷土を愛するとともに、他国の様々な文化も尊重できる子どもを育てよう。 (2) 様々な国の人たちと交流できる活動を推進しよう。 (3) 交流体験を通じてコミュニケーション能力を育成しよう。
9 学 校 教 育 への 協 力	(1) 教育改革への理解を深めよう。 (2) 学校の教育活動と関わり、「生きる力」を育む支援や協力に努めよう。 (3) P T A が、学校と地域社会の接点にあることを理解し、地域を取り込んで学校を支援しよう。

も く じ

○はじめに	3
○令和5・6年度静岡県PTA活動方針と重点	4

〈東部地区実践事例〉

(1) 子供たちの安全を支えるPTA活動	8
西伊豆町立仁科小学校	教頭 寺 川 雄 一
(2) 中伊豆中学校62年間の伝統を閉じる	10
～閉校に向けた地域との協働的な取組～	
伊豆市立中伊豆中学校	教頭 萩 島 禎 幸
(3) 子供たちの健康・安全を守るために	12
三島市立沢地小学校	PTA会長 櫻 井 学
(4) 皆で少しずつ 無理せず取り組む PTA	14
長泉町立長泉小学校	PTA会長 小野塚 鉄 平
(5) 未来に続くPTAのあり方について	16
裾野市立須山小中学校	PTA会長 時 田 純 兵
(6) 地域と共に歩むPTA活動	18
沼津市立片浜小学校	PTA顧問 山 口 暁 史
(7) より主体的なPTA活動を目指して	20
御殿場市立南中学校	教頭 清 水 達 夫
(8) 「動けるときに 動けるひとが 動ける範囲で 楽しむPTA」活動への変革とその軌跡	22
富士市立岳陽中学校	PTA会長 佐 藤 祐 樹

〈中部地区実践事例〉

(9) 縁JOY！	26
～笑顔をつなぐPTA活動を目指して～	
焼津市立焼津中学校	PTA会長 岡 村 幸 治
(10) 仲間と共に協力し、達成する喜びを伝えよう	28
～共に 考え 動くPTA活動～	
藤枝市立岡部中学校	教頭 岩 本 昭 恵
(11) 未来への資質・能力を育む「共育」環境づくり	30
島田市立金谷中学校	校長 滝 下 祥 央
(12) 子供たちの未来のために	32
牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校	教頭 石 間 郁 代

〈西部地区実践事例〉

- | | | | |
|------|--|---------------|----|
| (13) | 学校のために、今できることを少しでもやっていこう
～保護者と学校が無理なく連携を深めることができる活動推進を目指して～
森町立宮園小学校 | PTA会長 加藤 孝 尚 | 36 |
| (14) | ひろせっこ しょうぜ！
～みんなの 笑顔と 夢を つなぐ～
磐田市立豊岡南小学校 | PTA会長 秋 山 玉 光 | 38 |
| (15) | 時代に合った 持続可能で“わくわく”するPTA活動に
袋井市立袋井南小学校 | 教頭 藤 下 恵 里 | 40 |
| (16) | 持続可能なPTA活動と地域との連携
～無理なく 無駄なく 難しくなく～
湖西市立白須賀小学校 | 教頭 古 田 善太郎 | 42 |
| (17) | PTA活動の見える化
浜松市立浜北北部中学校 | PTA会長 馬 塚 孝 雅 | 44 |





〈実践事例提供：東部地区〉

- 西伊豆町立仁科小学校
- 伊豆市立中伊豆中学校
- 三島市立沢地小学校
- 長泉町立長泉小学校
- 裾野市立須山小中学校
- 沼津市立片浜小学校
- 御殿場市立南中学校
- 富士市立岳陽中学校

子供たちの安全を支えるPTA活動

西伊豆町立仁科小学校 教頭 寺川 雄 一

1 はじめに

本校は、「夕陽の町」西伊豆町の南に位置し、国道136号線沿いの大浜・浜・沢田地区、風光明媚な堂ヶ島など、学区の西側は駿河湾に面している。一方、学区の東側は、仁科川に沿って西天城高原まで、一色・大沢里地区が広がっている。海、山の豊かな自然の恵みを生かし、それぞれの地域にあったワサビ栽培、アロエ栽培、天草漁、伝統的なイカ漁などが盛んである。近年では、若年人口の減少と高齢化率の上昇が町全体の課題となっているが、地域の子供を大切にする意識は高く、地域連携が学校教育の充実につながっている。

今年度の児童数は60名。小規模の良さを生かし、上級生が下級生を遊びに誘ってあげるなど、あたたかな雰囲気にあふれる学校である。授業参観など学校行事への保護者の参加率も大変高く、PTAの活動も、子供たちの健やかな成長の一助となっている。



シンボル「光の子」像

2 活動のねらい

本校のPTA組織は、生活安全部と厚生部の2部で構成されている。安全指導については、もちろん学校の教育活動として、教育課程の様々な場面で行ってきているが、PTAとしても、子供たちの安全を守るために、交通安全の活動や、プール開放、マラソン大会の補助など、いろいろな活動をしている。

3 活動の内容

(1) 生活安全部の取り組み

① 自転車点検

本校では、毎年、年度当初に交通安全教室（自転車の乗り方教室）を開いているのだが、それに合わせて、PTAの活動として「自転車点検」を行っている。PTAの役員は、学区にある自転車店の方が1台ずつ点検を行う側につき、チェック表への記入を行っていく。普段から自転車に乗っている子供たちは、ブレーキの利き具合など自分で確認することもできるが、年に1回専門の方に点検をしてもらうことで、安全運転への意識が高まっている。

点検結果の概要については、PTA総会の場で生活安全部長から報告をしてもらい、保護者の安全意識を高めることにもつながった。また、傷害保険と賠償責任保険について周知する機会にもなった。



自転車点検の様子

② 交通安全リーダーと語る会

6年生が、保護者や警察、役場の交通安全課の職員に呼びかけて、「交通安全リーダーと語る会」を開催している。これは、通学の地区ごとに、子供の目、大人の目から見た危険な場所を出し合い、今後の通学路の安全のために、自分たちにできることを考えていく活動である。

PTAの取り組みとしては、生活安全部の役員や6年生の保護者が、車を運転する立場から、危険な場面を子供たちに伝えてもらっている。

各地区ごと、地図を見ながら具体的な場面を出し合い、交通安全についての意識を高めることができた。



それぞれの立場から、安全についての思いを
発言する参加者

(2) 厚生部の取り組み

心肺蘇生救急法講習会

本校は、夏季休業中に子供たちにプールを開放するために、PTAの輪番制でプール監視を行っている。そのために、PTA全員(各家庭でプール当番を行う人)に、心肺蘇生救急法の講習を受けてもらっている。

講師は、消防署職員と病院のACLS研究会の皆さんが務めてくれている。救急救命の必要性を教えてもらったあと、小グループに分かれて、人体模型を使った心肺蘇生法(人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使用)を行った。

毎年行っている内容ではあるが、子供の命に係わる講習のため、参加率は非常に高く、参加者した保護者の皆さんは、心肺蘇生に真剣に取り組んでいた。



協力して心肺蘇生を行う

(3) PTA全員参加の取り組み

① 「5の日の街頭指導」

この活動は、毎月「5のつく日」に、輪番制で通学路に立って行う交通指導である。年度当初、各家庭1回当番が回ってくるように、日にちと場所を割り振る(当番表は、児童名簿からリンクするように作られている)。当番に当たった人は、子供たちの通学時に横断旗を持って、割り振られた場所に行き、道路横断の見守りを行う。昨年度までは、地区ごとに見守り場所を決め、PTAの地区役員がそれぞれに当番表を作っていたのだが、本年度から地区の枠をなくし、簡単な操作で作成できる当番表を使っているため、役員の負担軽減にもつながった。



当番を決めて交通指導を行う

② プール監視

夏休みの数日間、学校のプールを開放するため、保護者の皆さんにプール監視当番をやってもらっている。昨年度までは、「心肺蘇生救急法」の参加状況を考慮しながら、厚生部長が当番表を作成していたが、都合が悪く当番日の変更を申し出る保護者が多くいたため、当番表の作成自体が労力を必要とするものであった。そこで今年度は、事前に希望日を確認し、その一覧表をもとに厚生部長に当番表を作成してもらった(「心肺蘇生救急法」の参加者が複数人はいるように配慮)。その結果、当番日の変更はほとんどなく、計画通りプール開放を行うことができた。暑い中でのたいへんな活動であるが、子供たちの命を守るために必要不可欠な取り組みである。

(4) PTA役員などによる取り組み

マラソン大会の監察

本校では、秋に行われるマラソン大会の監察をPTA役員をお願いしている。監察員は、割り振られた場所で交通整理をしたり、子供の安全確認を行ったりした。「万が一のときは、教員とともに心肺蘇生を行う場合もある」という気持ちで、真剣に取り組んでくれていた。

また、マラソンの試走の際には、事前に募集した保護者ボランティアの皆さんが、同じように監察員の仕事をしてくれている。PTA役員始め保護者有志の協力のおかげで、今年度も無事故で大会を終えることができた。



マラソンの監察

4 成果と今後の課題

学校での教育活動を行うにあたり、児童の安全を確保することは一番に優先されるべきことである。しかし、学校が小規模になり、教員の数が増えている中で、教師だけでそれを行うのは不可能である。本校の保護者は、学校に協力的で、子供たちの活動が安全で充実したものになるよう、いろいろな面でサポートしてくれている。

しかし、児童数の減少に伴い、PTA数も減少しているため、例年と同じことをやっていては保護者の負担が増すばかりである。学校の事情や保護者の思いを汲みながら、子供たちにとってよりよい活動となるよう、これからも、子供たちの安全を支えるPTA活動の充実を図っていきたい。

中伊豆中学校62年間の伝統を閉じる

～閉校に向けた地域との協働的な取組～

伊豆市立中伊豆中学校 教頭 荻 島 禎 幸

1 はじめに

本校の学区は、伊豆半島の中央部に位置し、豊かな森林と清らかな水に恵まれ、自然に囲まれた穏やかな地域にある。天城山を水源とする大見川上流部では、わさび栽培が盛んに行われ、全国的にも有数な生産地となっている。しかし、年々人口が減少し、また少子高齢化による生徒数の減少にともない、平成23年には小学校の統合、そして中伊豆中学校は令和7年4月、修善寺中学校、天城中学校と統合し、伊豆中学校が開校する。つまり、この研修資料「話し合い」第68号の刊行時は、すでに中伊豆中学校は、閉校後ということになる。

新しい中学校が開校することは喜ばしいことだが、地域とともに歩んできた学校が閉校となると、卒業生や地域の方々の寂しさが痛烈に伝わってくる。62年間の歴史を心に留めておきたいと歴代PTA会長、歴代生徒会長をはじめ、学校運営協議会、PTA役員、教育関係者、ボランティアの方々による「閉校実行委員会」を組織し、記念事業を展開した。原稿締切の関係もあり令和7年3月22日に行われた閉校式の様子をお伝えすることはできないが、令和5年度から6年度にかけて行った、閉校に向けた地域との協働的な取組を紹介する。



1962 授業風景

2 中伊豆中学校の歴史

- 1958（昭和33）年1月 上大見村、中大見村、下大見村が合併し、中伊豆町となる。
- 1963（昭和38）年4月 白岩教場、八幡教場、八岳教場が統合し、中伊豆中学校として開校する（生徒数669名）。1964（昭和39）年の新校舎完成までは、それぞれの教場で授業が行われていた。
- 2004（平成16）年4月 平成の町村合併により、中伊豆町、修善寺町、天城湯ヶ島町、土肥町の4町をもって、伊豆市が新設された（生徒数249名）。
- 2025（令和7）年3月 中伊豆中学校が閉校となる（生徒数110名）。
- 2025（令和7）年4月 修善寺中学校、天城中学校、中伊豆中学校が統合し、伊豆中学校として開校する。

3 活動の内容

(1) 学校運営協議会から閉校準備委員会へ、そして閉校実行委員会の立ち上げ（令和5年度から6年度にかけて）

本校では令和5年度より学校運営協議会が組織され、学校教育目標である「夢を叶える」の具現化のために、保護者、地域の方々と思いを共有しながら活動してきた。同時に、中伊豆中学校の閉校に向けた取組に関する助言もいただいた。その中で委員より、「生徒の思いを大切にしたい。」というご意見をいただき、令和6年2月に全校生徒から「閉校式やイベントのアイデア募集」のアンケートを取った。



2023.12/1 閉校準備委員会



学校運営協議会委員長と校長の思いは同じ「主役は生徒」。そこで、このアンケート結果をもとに、学校運営協議会のメンバーを中心とした、「閉校準備委員会」を組織し、令和6年度より閉校に向けての準備が本格的にスタートした。まず協議したのが、何ができるか、どのようなメンバーでどのくらいの人数が必要か。そして、どのような担当（部会）を必要とし誰を充てるのかである。

2024.5/31 第1回閉校実行委員会 つまり、「閉校実行委員会」を組織していこうということだ。閉校実行委員会のメンバーとしては、歴代PTA会長、歴代生徒会長を中心に組織した。強みとしては、過去、小学校の閉校に携わった委員がいたこと、卒業生に様々な業種の著名人や現役教育関係者が多くいたことであった。

(2) 閉校実行委員会による事業（令和6年度中5回の閉校実行委員会と閉校式前日・当日の準備等、及び各部会を臨時的に開催）

閉校実行委員会の下部組織として、実行委員長のもと3つの部会を設定し、事業を展開した。各部会長を中心に事業を計画し、関係事業所や行政等に働きかけ、協力を仰いだ。

① P R ・ 展 示 部 会

空き教室を展示室にし、思い出の品（アルバム、写真、文集等）を展示した。そのために、地区の回覧及びHPを活用し、地域の方々からの思い出の品を募集した。展示室の開放日を設定し、部員が来校者の受付や案内を担当した。

② 記念誌・記念品部会

校長や生徒代表のメッセージ、過去の写真など8ページの記念誌にまとめ在校生や地域の方々に配布した。また、記念品として、卒業生のデザインによるオリジナルトートバックを作成し、記念誌とともに配布した。

③ 閉校式部会

3月22日の閉校式の企画・運営を行った。本校卒業生である県内民放テレビ局アナウンサーと高校生が司会を担当した。中伊豆出身の著名人からもビデオメッセージをいただき、思い出の写真とともに、スライドショーとして閉校式で披露した。他にも、現役器楽部員と地域の演奏家（器楽部OB）による合同演奏会を行った。最後は、打ち上げ花火と風船とばしで幕を閉じた。

(3) 生徒の思いを大切にしたい記念事業

校長の方針は「主役は生徒」、「アンケートに上がった内容は、できるだけやってあげたい。」であった。そこで、外トイレの壁面のデザインや、キャリア教育講話での大型モザイク画の制作を行った。いずれも、生徒からのアンケートや要望によるものであった。それ以外も、校舎内壁面のデザイン画、自分の特技を表現するミニコンサートなど、生徒が主体となって参加する姿が数多く見られた。こうした取組は中伊豆中学校の卒業生であることへの誇りにつながり、やがて彼らが大人になったとき、地域の学校のために応援しようという、持続可能な取組につながっていくものと思われる。未来への種まきは、どの学校においても重要であろう。

(4) 地域の方々とのつながりを意識した事業

本校のここ数年間のPTA活動と言えば、主に夏の奉仕作業と資源回収（令和4年度まで）であった。例年、夏の奉仕作業は参加率が高く、協力的な地域である。そこで令和6年度は、最後の奉仕作業としてPTA会員だけでなく、地域の方々にも参加を呼び掛けた。また、体育祭では地域の方々にも参加者を募り「玉入れ」を生徒とともに競った。競技終了後は、ご来場の方々を含め、全員で上空から記念写真を撮った（ドローン）。ねらいとしては、閉校に向けて、地域と学校をつなぐを双方で意識を高めていくとともに、より多くの方々に中伊豆中学校に足を運んでもらいたいことが一番であった。このねらいは、閉校実行委員会の事業のねらいでもある。



2024.3/14 外トイレ壁面デザイン



2024.3/17 キャリア教育（モザイク画）



2024.10/11 緑流祭「玉入れ」

4 成果と課題

学校評価には「中伊豆中学校の生徒であることに誇りをもっている」という項目が、生徒及び保護者に設定されている。今年度は、昨年度より約20%上昇したことから、これまでの活動が意識の高まりにつながったと考えられる。何よりも、保護者や地域の方々、そしてPTAや学校運営協議会、閉校実行委員会の方々の思いが、形となり心に響く取組であったに違いない。

令和7年4月より「伊豆中学校」が開校する。学区がこれまで以上に広範囲となり、地域との協働体制が整うには時間を要するであろう。しかし、地域の未来を担う子供たちのために、学校と地域はパートナーとして、相互に連携・協働していくための歩みを着実に進めていかなければならない。



2024.10/11 閉校記念写真（ドローン撮影）

子供たちの健康・安全を守るために

三島市立沢地小学校 PTA会長 櫻井 学

1. はじめに

東京から新幹線ひかりであれば40分ほどの距離にある三島駅ですが、そこから北東方面に車で10分ほど行った所に沢地小学校は位置しています。学校の周りは緑に囲まれ、校庭の桜や通学路の紫陽花は毎年見事な花を咲かせています。沢地小学校の裏を流れる沢地川には5月下旬から6月上旬にかけて多くのホタルが飛びかっています。

令和5年度に開校50周年を迎えました。かつては児童数が900名を超えていた時代もありましたが、令和6年度現在は全校児童263名で学級数はどの学年も2クラスとなっています。以前に比べると少し寂しいかもしれませんが、お互いの距離も近く非常にアットホームな雰囲気となっています。自然に囲まれた中で子供たちは元気いっぱい学校生活を楽しんでおります。



校庭の桜

2. 活動のねらい

沢地小学校では日頃から地域との繋がりを大切にした教育活動が行われています。PTAとしても、学校・地域・家庭が連携し、みんなで子供たちに関わることで子供たちの「心の健康」や「安全」を守っていくことに繋がると考えました。

そこでPTAとして以下の2点を重点に実践と研究を進めることにしました。

- ① 地域の大人が積極的に関わっていくことで子供たちの健やかな心を育み、安全を守っていく
- ② あいさつ運動を通して、話ができる友達や地域の顔見知りを増やし、心の健康や防犯に繋げていく

この2点を重点として、PTAとしてできることから取り組んでいきました。

3. 活動の内容

(1) スクールガードの存在

沢地小学校は地域とのつながりが深いのが特徴です。特にスクールガードの皆さんは地区の全ての子供の名前を憶えているほど子供たちに深く関わってくれています。雨の日も風の日も、毎日子供たちの登下校に付き添ってくれるので親としても毎日安心して子供を送り出すことができます。

本校では「スクールガード紹介の会」や「地域の方に感謝する会」が年間計画の中に位置付けられています。中でも「地域の方に感謝する会」は全ての児童と保護者が集まる「引き渡し訓練」の日に設定されており、日頃お世話になっているスクールガードの皆さんに全校で感謝の気持ちを伝えています。子供たちと触れ合って生活することを喜びと感じて頂いており、積極的に子供たちを守って頂ける貴重な存在となっています。



登下校を見守るスクールガード



地域の方に感謝する会

(2) 粋なおやじの会の活動

スクールガードと共に、地域の大人として子供たちと関わりが深いのが「粋なおやじの会」です。この会はPTA組織の健全育成部から派生した組織で保護者や保護者OBの有志で運営されています。非常に熱心な方が多く、紫のTシャツを着たおやじの皆さんが学校行事のどの場面にも必ずいてくれています。学校行事の手伝いやPTA整備作業だけでなく、独自の楽しい企画も行っています。この粋なおやじの会の活動にPTAも地域の大人の一人として連携・協力を行って



PTA 整備作業

おります。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が第5類となりコロナによって中止されていた数々のイベントがようやく以前のように行えるようになりました。地元自治会や各団体で行われていたイベントや催し物は上手く引継ぎが出来ず縮小での開催や消滅してしまったものも多くあったと思います。しかし粋なおやじの会の皆さんがすごかったのは団結力と子供たちに楽しんでもらいたいという想いを持って令和5年6月時点にはコロナ前同様に「イザ！カエルキャラバン！」という防災イベントをほぼ通常開催にて行いました。



防災イベント「イザ！カエルキャラバン！」

その後の各活動も子供たちの安全に配慮しながら通常開催を行うことができました。8月には「学校に泊まろう」という防災宿泊イベントの実施、1月には「どんど焼き」の実施を行いました。このようにPTA活動の一端を担う「粋なおやじの会」の活動により、子供たちに笑顔があふれ地域の大人とも沢山の繋がりを持つことができました。



夏休み防災宿泊「学校に泊まろう」



どんど焼き

(3) あいさつ運動

沢地小学校は令和4年度と令和5年度の2年間、県のあいさつ運動推進校に選ばれ、あいさつ運動に力を入れてきました。校門や昇降口に立ってあいさつするといった「あいさつ運動」だけでなく、創造性に富んだおもしろい活動が生まれ、次第にあいさつを楽しむ雰囲気が高まってきました。学校での「あいさつ運動」が広まりを見せる中、PTAとしても何か協力できないだろうか？という声からPTA主催のあいさつ運動を行うことにしました。保護者にとっての負担が懸念事項に上がっていましたが、できるだけ簡単な方法で取り組める「あいさつ運動」を考え、実施することにしました。

令和4年度は「みんなのあいさつ運動」と題し、各家庭にプリントを配布し子供たちが自分のあいさつを振り返ると同時に、大人にも日々のあいさつを振り返ってもらい、家庭や地域の中であいさつする雰囲気を高めていこうという活動を行いました。令和5・6年度は「PTA家の前あいさつ運動」という取り組みへと発展させました。その名の通り子供を送るときや迎えるときに、家の前に5分程度立ってもらい、そこを通る子供たちや地域の人にあいさつするという活動にしました。実施をしてみると家の前から人通りが多い場所や友達との待ち合わせの場所まで、一緒に歩いてあいさつをしてくれる家庭もできました。あいさつを通して、スクールガードとも連携をしながら子供たちの安全を守ることができました。



PTA家の前あいさつ運動

4. 成果と今後の課題

活動を通しての一番の成果は、「スクールガード」や「粋なおやじの会」など多くの地域の方々に子供たちが支えられていることが実感できたことです。地域の多くの目で子供たちを見守っていく体制が出来ているのが、本校の強みであると改めて感じる事ができました。PTAとして新たな取り組みをしていくことよりも、この強みを生かして上手く地域と連携していくことが子供たちの幸せに繋がっていくのだと感じました。またそれが子供たちの「心の健康」や「安全」に繋がることも実感することができました。

今後の課題としては、仕事や子育ての忙しさからPTAには加入したくないという家庭が増えていることです。PTA活動に理解を示し、加入はしているものの役員は引き受けられないという意見もよく聞かれます。時代と共に生活スタイルや保護者の考え方が変化していく中、いかにPTA活動の良さを伝えて協力者を増やしていくか、また誰でも取り組みやすく、関わりやすいPTA活動とはどういうものか、を考えていくことが課題だと感じました。「スクールガード」や「粋なおやじの会」の方をはじめ、三島市PTA連絡協議会の皆さんも熱い気持ちを持ってPTA活動に取り組んでいらっしゃいますので、そのような方々との連携も含めて課題解決を行っていきたいと思います。

皆で少しずつ 無理せず取り組む PTA

長泉町立長泉小学校 PTA会長 小野塚 鉄 平

1. はじめに

長泉町は、静岡県 の 東部、三島市と沼津市の間に位置する人口5万人弱の小さな町です。生活・交通の利便性や手厚い行政サービスから、住み心地が良い町としても知られており、特に子育て世帯からの人気が高いと言われています。町内には小学校が3校・中学校が2校あり、長泉小学校は、生徒数約1000人・教職員数約100人と、県内でも有数の大規模校です。明治8年に創立し、今年度150周年を迎えました。「自ら考え 高め合いながら 伸びる子」を学校教育目標とし、「関わり合う」をキーワードに大規模校のメリットを最大限に活かして、社会性・協働性を高める教育に力を入れています。

2. 活動のねらい

コロナ禍を経て、最初に会長を務めさせていただいた令和4年度は、何もわからないまま、ただ漠然と「コロナ禍以前の状況に戻すことが出来ればいいな」と考えていました。

しかし、長い間活動を自粛していたせいで、引継ぎも資料も十分ではなく、1年間という短い期間では、ただ戻すだけでも満足に行うことが出来ませんでした。

また、活動をしていく中で、PTAの意義や必要性を実感するとともに、体制や活動内容・運営方法といったものが、現在の長泉小学校の状況に適していないのではないかと考えるようになり、これまでの活動を元に戻すことが、ベストな選択なのか疑問に思うようになりました。

そして3年目の令和6年度は「皆で少しずつ 無理せず取り組む PTA」というスローガンを掲げ、敬遠されがちなPTAの活動を、特定の誰かだけに任せるのではなく、誰もがちょっとずつ協力し合うことで、誰もが無理なく取り組んでいくことのできるPTAを目指しました。

3. 活動の内容

これまで取り組んできた内容は主に、活動内容の見直しと、会則の見直し、そして活動方法の見直しの3つです。

まずは、活動内容の見直しですが、これまで当たり前に続いていた活動の中で、活動の負担や継続の必要性等を精査していきました。会長・副会長に集中していた町からの宛職を他の役員にも一部引き受けてもらい、負担の偏りを軽減しました。

そして保健委員と文化体育委員を兼務とし、ベルマーク委員と広報委員は令和7年度から廃止としました。ベルマーク委員に関しては、委員の負担感に対して回収効率が下がってきていたことが要因で廃止となり、広報委員に関しては、長泉小学校ではCラーニングというアプリを活用していて先生方がこまめに情報共有をしてくださるため、負担も大きく、形式的な広報紙の需要が低下したため、廃止となりました。

活動内容の見直しに合わせて会則の見直しも行いました。「各委員はそれぞれの学年から1名以上選出する」となっていたものを、「全学年の中からそれぞれの委員ごとに必要な人数を選出する」と変更し、役員選考の負担を軽減しました。

そして最後に活動方法の見直しです。役員の負担軽減の大きな要因の一つに前述のアプリ、Cラーニングの活用があります。教職員だけでなく、保護者も同じアプリを活用することで、教職員と保護者間や保護者同士の密な連絡を可能にし、スピーディな情報共有や意思確認ができるようになりました。コロナ禍以降、アプリを活用して書面での開催としていた総会に加え、前年度から評議会（PTA役員の定期会議）の開催についても、アプリでの開催を始めました。議題の重要性等を考慮し、必要に応じて集合開催とアプリ開催を使い分け、役員が平日の夜に学校まで出向く負担を軽減しました。

PTA主催行事の案内や役員選考の際のお知らせやアンケートをアプリで全世帯に送れるようになったことで、作成

の負担だけではなく集めた情報の集計作業の負担軽減にも繋がりました。

4. 成果と課題

これまでの取り組みに関して、当初重要な課題として掲げた「役員の負担軽減」という面では、活動の内容でも触れている通り、一定の成果は得られていると実感しています。しかし、今では負担の軽減は、PTAの活動を本来の在り方に近づけていくための第一歩だと思っています。今後の課題として、保護者がPTA活動に関わる理由が、「負担にならないから」という消極的なものではなく、「子ども達の学校生活をより良いものにしてあげたい」というもっと積極的なものになるように、関わりたくなるPTAを目指していきたいと思っています。

未来に続くPTAのあり方について

裾野市立須山小中学校 PTA会長 時 田 純 兵



1 はじめに

裾野市立須山小学校及び須山中学校は、標高550m以上の高地に位置し、富士山や愛鷹連峰を望むことができる自然豊かな地域にあります。学年1クラスのみ的小規模校の良さの中で、子どもたちはのびのびと健やかに成長しています。須山小学校と須山中学校は少し離れた場所に位置していますが、PTAを統合することにより小中学校、保護者、地域の連携を密にすることができています。

「須山」という地域は、山間部の独立した集落になっており、地域で子どもを育てる意識が非常に強いと感じています。特徴的なのは、須山地区体育大会や夏祭りなど、学校、地域、保護者が一体となって行うイベントが他の地域よりも多く、学校運営・学校行事にも地域の方々から多大なご支援をありがとうございます、子どもたちの学習をサポートしていただいていることです。また、須山小学校と須山中学校はお互いに一部の学習プログラムを連携させるなど子どもたちが学習しやすい環境づくりにも取り組んでおり、一定の学習効果を得られています。

しかしながら、近年の少子高齢化に伴う児童生徒の減少や世代間での人口に差が出てしまうのは避けられず、今までと同じように子どもたちのサポートを継続するためには早急な対策を講じる必要があります。日本全国どの学校も共通していることですが、共働き家庭が一般化し、忙しさの中での子育てが当たり前になっている現在、子どもたちのためのPTA活動に参加できる保護者が少なくなっているのは当然のことです。そこで、まずはPTAのあり方を見つめ直し子どもたちの支援を継続していくために「令和6年度PTA改革」活動を令和6年度PTA委員会で行うこととなりました。

2 活動のねらい

PTAの目的は、「学校教育」「家庭教育」「社会教育」を行ったり来たりする子どもたちの教育環境を、教職員・保護者が連携し、地域の方々の協力を得て責任を分かち合いながら整備することです。

しかし、先に述べたとおり家庭の生活様式の現代化に伴い、保護者向けのアンケート結果ではPTA活動に参加しにくい保護者が大多数を占め、その結果、PTAの存続自体が難しくなっているのが現状でした。「令和6年度PTA改革」活動では保護者がより参加しやすい、現在の生活様式にあったPTAのあり方を模索し、単に「減らす」「なくす」ではなく子どもたちへの支援を継続・発展させられるようなPTAを構築するねらいがあります。

3 活動の内容

(1) 保護者のPTAに対する意識調査

PTA改革のきっかけになったのは、任意加入の正常化です。昨年まで須山小中PTAは入学と同時に同意の意思確認なく入会することが慣例になっており実質強制加入となっていました。令和7年度からの任意加入制の正常化に伴いPTA会員の減少は避けられず、事前アンケートでは約60%の保護者が継続加入に疑問を持っていました。PTAへの継続加入にネックになっているいちばんの原因は言わずと知れたPTA役員の負担です。アンケートの結果で感じた保護者の考えは総じて「子どもたちのために何かしてあげたいけれど、PTA活動に参加する時間がない」「家を空けられずPTA役員の集まりに参加できないため、PTA会員でいるのが申し訳ない」というものでした。

(2) PTA役員における活動内容の精査

PTA役員には広報誌の作成や少年補導員などそれぞれ役割が与えられ、役割によっては大きな負担がありました。しかしながら、名前だけ残っていてすでに活動していない役割や縮小した役割などが目立ちます。また今まで5、6人で行っていた広報誌の作成もコロナ禍を経て1、2名で作成する方が負担を少なくし活動しやすいということがわかりました。

(3) PTA役員の再編

令和6年度までは13名のPTA役員で運用してきましたが、(2)で行った活動内容の精査により子どもたちへの支援をこれまで通り継続しながら、本部役員4名と専門的な役割のみを行う準役員4名まで役員編成を縮小させることができました。よく質問されることですが、役員数の減少により役員一人当たりの負担が増えるのではと危惧されていましたが、実際には役員一人当たりの負担も40%ほど減らすことができました。

(4) PTA役員の魅力化

役員編成の縮小により役員数を減らすことはできましたが、役員に負担があることは変えられません。今まではくじ引きや未経験者に役員を押し付けるような選出方法が採られていましたが、負担を負担に感じないような楽しく活動ができる組織運用を目指し、本部役員はPTA会長の推薦を役員選出の第1とすることにしました。気の合う仲間ですPTA役員を実施することにより、より良い子どもたちへの支援、PTA活動の魅力的アイデアの発出を行うことができると考えています。

4 成果と今後の課題

今回のPTA改革により多くの保護者からご賛同いただき、80%ほどの保護者に来年度PTAへ入会していただきました。また来年度PTA役員も立候補者の中から選出し、今までのようなくじ引きや押し付けを避けることができました。

今後も生徒児童数のさらなる減少、裾野市が進める学校再編、また、教職員の働き方改革などにより子どもたちを取り巻く教育環境は急速に変化していくことが予想されます。今後もさらに学校、保護者、地域が共に連携を密にし研究し、手を取り合って子どもたちを育てる環境づくりに取り組む必要があります。これからは須山の子どもたちが笑顔で元氣よく健やかに教育を受けられるように、時代に順応したPTAを持続的に運用していただけるよう切に願います。

地域と共に歩むPTA活動

沼津市立片浜小学校 PTA顧問 山口 暁 史

はじめに

本校は、明治6年7月23日に創立され、令和5年度には、創立150周年を迎えた学校であり、令和6年度の全児童数は295名、特別支援学級を含め全14学級の規模です。学区は、東西に広く、南北は国道1号線と海岸に挟まれています。古くからこの土地に住まわれている方も多く、また新たに転居されてきた方も含め、多くの方の地域の子供を見守る目は温かく、学校への愛情も深いです。地域ボランティアによる登下校時の見守り活動や朝の読み聞かせも多くの方が長年継続して行っています。また、運動会の児童応援席用テントの設置では各自治会からテントを借り、その搬入や設置、搬出を地域の方の協力を得て行っています。

令和4年度からは、学校運営協議会が立ち上がり、コーディネーターを中心に家庭科等への授業支援、総合的な学習の時間の活動場所紹介も行ってくださる等、様々な点で学校への支援体制が整えられ、「地域とともにある学校」を目指して取り組んでいます。



1 活動のねらい

本部スローガンを「思いやりの輪を広げよう 地域と共に育むPTA」とし、学校だけで活動を考えるのではなく、地域とともに歩む体制を大切にするために、PTA会長は地区の会合にも参加し、学校と地域をつなぐ役割を担っています。また、コロナ禍を経験し活動内容を精選する中で、委員会を令和3年度の5つから3つに集約したり、試験的にPTA奉仕作業を理事会役員と教員のみとしたりと、保護者全体の負担軽減を図る取組をしてきています。多くの保護者が、活動を進める中で思いやりの輪を広げ、自分自身も成長できるようにしていきたいと考えています。

2 活動の内容

本校は本部を含め4委員会で活動を行っています。

- 本部 : 「思いやりの輪を広げよう 地域と共に育むPTA」
理事会（各月1回） PTA関連行事の運営・総括
市P連各行事への参加 地区子ども委員会活動のサポート
- 安全委員会 : 「みんなで広げよう安全の輪」
早朝街頭指導（年4回） 1～3年交通安全教室支援
交通安全リーダーと語る会支援 新1年生保護者対象旗振り講習会
- 学年代表委員会（令和6年度より母親委員会から学年代表委員と名称変更）
: 「協力し合い クラスと家庭を繋げよう」
担任との情報共有 学年会計監査
ウェブベルマークの案内
- 地区子ども委員会 : 「元気よく増やしていこう 子どもの笑顔と地域の輪」
市内砂の造形大会 球技大会 子供の遊びの王国運営
どんど焼き 地区祭典参加
地区子ども委員会（各月1回）

令和5年度までは、母親委員会としていた名称を「学年代表委員会」とするとともに、これまで行ってきたベルマーク回収も令和6年度からはウェブベルマークとし、全ての保護者が参加しやすく、また子供たちに還元できるような取組へと変革してきました。また、沼津市PTA連絡協議会、沼津市子ども会とも連携し、子供たちが地域を愛し、大切

にされていることを実感できる活動については、役員の協力を得て、活動を継続しています。

3 令和5年度「150周年行事」について



150周年に向けて、令和4年度よりPTA理事会で協議を行い、PTAとして記念パンフレットを制作することとしました。地域の方にもメッセージを寄せていただくとともに、子供たちの「今」を切り取るために、それぞれの学年に「休み時間の好きな遊び」「夢中になっていること」「将来の夢」等を尋ねるアンケートを行い、その結果を掲載しました。また、全校を対象とした「好きな給食メニュー」も載せています。さらに、片浜地区は、1小1中で構成されているため、中学校にもアンケートに協力いただき、「小学校での一番の思い出」「片浜地区のよいところ」についても回答結果を載せました。子供たちが大人になったときに振り返る材料として、地域の皆さんがご自分の小学生時代を思い出したり、地域の子供たちのことをより身近に感じたりしてもらえるよう、紙面を工夫しました。

地域の方からのメッセージでは、この地をどれだけ愛しているかが伝わり、保護者の一人として、自分もこの地域を守る一人であることや、

子供を守り、育てていくことへの自覚を高めるような内容となっており、心に響くものでした。改めて、地域として学校を大切にしたいという思いをPTAの活動に生かしていきたいと感じました。

学校では、150周年記念集会として、地域の卒業生の方を招いて当時のことをインタビューしたり、歴史クイズを皆で解いたりしました。集会の最後には、参加いただいた地域の方とともに風船をみんなで飛ばしました。青く晴れた空に、色とりどりの風船が舞い上がった様子は、多くの子供たちの心に残ったことと思います。



4 成果と課題

成果として、学校行事にPTA活動の一環として保護者が参加することは、子供とのコミュニケーションのきっかけづくりに非常に貢献出来ていたと感じます。

課題としては現状、児童数の減少、共働きの家庭数が増えたことなどの影響で、PTA役員を受け難い家庭が増えてきたことです。地域による児童数の差もあることから、役員選出方法をこれまでの地域輪番制を廃止し、学区全体から立候補を集い、立候補者がいない役職については役員対象者の中からくじ引きを行うという方法に変更し、地域格差の解消に取り組みました。古紙回収や奉仕作業、運動会のテント設営等それぞれの活動に協力することに抵抗がある保護者が多いというよりも、企画、運営に掛ける時間が取れないという保護者が多いことや役員をやりたいと思っている方のチャンスを奪っていた背景があったため、選出方法の変更が今後のPTA運営の起爆剤になればと思っています。

これからのPTA活動は今までの活動を継承していくということも勿論大切ですが、常に見直し、改革を進めていく気持ちをもって運営していくことが今後の課題と捉えています。

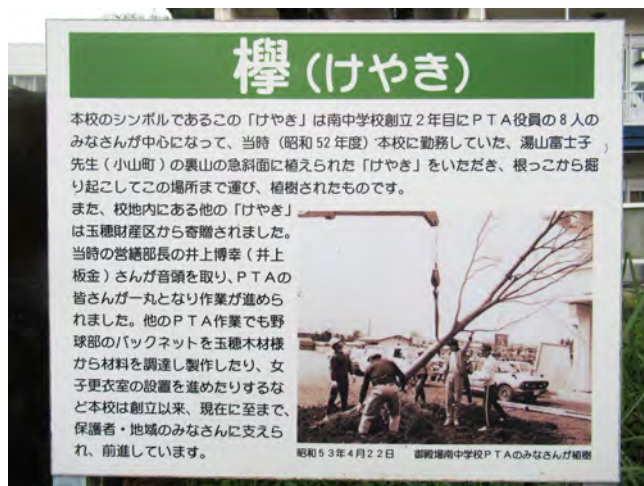
より主体的なPTA活動を目指して

御殿場市立南中学校 教頭 清水 達夫

1 はじめに

御殿場市立南中学校は、昭和52年創立の御殿場市内で一番新しい中学校です。設備や環境が十分に整っていない状況で開校し、地域や保護者の皆さんに支えられてきた歴史があります。そのため、今でも地域や保護者の方が地域やPTAの活動に対して非常に熱心で、学校にも協力的な方が多いです。

一方、新型コロナウイルス感染症による様々な活動の中止の影響や、時代の変化による保護者の考えの多様化により、PTAの組織や活動について見直す必要性も出てきているのも事実です。



本校のシンボルツリー「けやき」に設置されている看板

2 活動のねらい

「はじめに」で述べたような地域や保護者の力を生かしつつ、時代の変化に合ったPTAの組織や活動に変えていき、より主体的なPTA活動にすることを目指して取組を行いました。

3 活動の内容

(1) 役員組織の精選

令和5年度までのPTA役員組織は以下のとおりです。

【本部役員】

- ・会長 1人
- ・副会長 4人（次期会長、支部長会長、家庭教育学級長、教頭）

【支部役員】

- ・支部長 各1人 計5人
- ・副支部長 各1人 計5人

【専門部役員】

専門部	新橋	森之腰	二の岡	茱萸沢	永原	合計
研修・校外生活指導部	5	2	2	2	2	13
施設営繕部	4	2	2	1	2	11
広報部	4	2	3	1	2	12
合計	13	6	7	4	6	36
世帯数(%) R4	41%	15%	22%	6%	16%	100%

【学年部役員】

- ・部長 各1人 計3人
- ・副部長 各1人 計3人

各支部長を中心に次年度の役員選出を行っているのですが、令和4年度末に役員選出が予定どおり進まない支部が複数あり、支部長からも役員の選出が難しいとの声が挙がりました。そこで、令和5年度に役員組織の精選の検討を始めました。PTA活動を盛んに行ってきた歴史もあるので、役員組織の精選はためられました。令和6年度から学校運営協議会が本格実施になることもあって地域や保護者との関係は維持できると考え、令和6年度から専門部役員を以下の表のように縮減することと、学年部役員を廃止することを決定しました。

専門部	新橋	森之腰	二の岡	茱萸沢	永原	合計
研修・校外生活指導部	2	2	0	0	2	6
施設営繕部	2	0	2	0	2	6
広報部	2	0	2	2	0	6
合計	6	2	4	2	4	18
世帯数(%) R5	38%	14%	24%	4%	19%	100%

各専門部役員の任期は2年なので、上の表で「2」となっている箇所は実質1人を決めれば良いということになります。そのため、令和6年度の役員選出を行う令和5年度の各支部長からは歓迎の声が挙がりました。

(2) バザー（文化祭時）

本校PTAの伝統的な活動として、施設営繕部によるバザーがあります。コロナ禍では中断していましたが、令和5年度から会長の強い意思で再開を決定しました。バザー用品は各家庭からだけでなく、校区にある商店街からも提供していただきました。各支部長や施設営繕部役員の熱心な働きかけにより、お買い得商品が集まり、多額の売り上げが出ています。その売上金は毎年、周年行事運営のために貯蓄しています。



令和5年度のバザーの様子

(3) 2年生キャリア教育特別授業

静岡県中小企業家同友会御殿場支部に所属している令和5年度の会長からの提案により実現しました。保護者として、御殿場で仕事を頑張っている大人の一人として、子供たちに人生や仕事について考えるきっかけを設けたいという熱い思いから中小企業家同友会の皆さんと企画してくださったものです。令和5年度も6年度も、それぞれ5人の講師の方を選抜くださり、子供たちが講師を選んで授業を受けるという形を取りました。令和6年度については、令和6年度の会長が中心となって企画・運営を進め、約1時間ずつ2人の講師の方のお話を聞く形を取り、子供たちは大いに刺激を受けました。



令和5年度キャリア教育特別授業のパンフレット



令和6年度キャリア教育特別授業後のPTA会長の話

4 成果と課題

成果としては、保護者や役員の負担軽減を考え役員組織を精選したこと、コロナ禍が終わり、歴史的な活動を再開できたこと、子供たちと保護者・地域にとってwin-winな活動を立ち上げることができたことが挙げられる。

課題としては、役員組織の精選に取り組んだが、さらなる精選の声も挙がっている。また、再開したバザーについても、役員の負担は大きいという声があることも事実である。

今後も、本校の特徴や良さは残しつつ、時代に合わせた変革を保護者、地域と共に行い、より主体的なPTA活動を模索していきたい。

「動けるときに 動けるひとが 動ける範囲で 楽しむPTA」活動への変革とその軌跡

富士市立岳陽中学校 PTA会長 佐藤 祐樹

1 はじめに

新型コロナウイルスは社会の在り方に様々な影響を与え、任意団体として活動しているPTAもその存在意義が問われることとなった。その蔓延が叫ばれ始めた令和2年度から令和4年度の3年間小学校のPTA会長を務め、引き続き令和5年度から令和6年度まで中学校のPTA会長を務めるなかで行った、組織の適正化や新たな活動内容などについてまとめておくこととする。

2 活動のねらい

令和6年度から富士市内の全公立小中学校は「小中一貫教育」となり、義務教育9年間を見通した一貫教育の充実を図るとともに、「学校運営協議会」が設置され、学校・家庭・地域が協同して児童、生徒を育てる学校づくりの方針が示されることとなった。そのため、小・中学校の単位PTAも組織の在り方に大きな隔たりがないように、なるべく活動方針を一致させることを数年前から計画した。

特にコロナ期間中には、活動することが制限されたことを前向きにとらえ、コロナ明けのタイミングで必ず起こる「PTA不要論」に対して、どのように真摯に向き合うかを議論した。その結果、活動方針は「イベント実施型PTAから課題解決型PTA」へと見直しを図った。私たちが残していきたいのはこれまでと全く同じPTAの【形】ではなく、「家庭（保護者）と学校（教師）が協力して子どもたちの教育環境をよりよくしていく」という【想い】であると考えている。

3 活動の内容

(1) 組織設計と合意形成

まず、着手したのが組織の適正化である。「動けるときに、動けるひとが、動ける範囲で、楽しむPTA」という基本方針を掲げるためには組織の適正化は必須だった。その頃、小・中学校のPTAには環境整備部や成人教育部といった部制度が存在し、それぞれの部に町内ごとから選出された部員と呼ばれる会員が配置され【部員制度】、さらにそれらを統括するように一般的に「本部役員」と呼ばれる「理事」も町内ごとの割り当てにより選出されていた【町内選出理事制度】。しかし、会長就任の前年秋頃には、役員決めで保護者同士の関係が悪化したり、涙したりする保護者がいることを知り、無理やりに形作られた組織の在り方に大きな疑問と会長としての責任を痛感した。

そのため、次年度から全会員アンケートを実施し、会員が望む組織の在り方を聞き取り、段階的にPTAから「強制」という概念を排除することとした。その結果、小・中学校それぞれ2年程度で前述の役員の強制選出を一切取りやめ、声を掛け合って「動ける人」が集まった理事のみを役員と位置付ける組織へと生まれ変わった。また、令和4年度には小・中学校ともにPTAの入会・退会を明記した規約に変更した。

(2) 具体的活動

小・中学校のPTAともに、活動への強制動員も一切しないことを徹底した。活動の旗振り役である理事が会員アンケートなどをもとに学校と活動内容を協議し、その都度、参加できる会員を募集している。活動内容を決めてから必要参加人数を決めるのではなく、集まれる人数で出来る最大限の活動を実施するように意識変革を促している。以下では、富士市立岳陽中学校PTAが令和6年度に実施した活動の中から特色ある活動を紹介していくこととする。

【中学生ボランティア制度】 前述の学校運営協議会の設置に合わせて各校に配置されたCSD（コミュニティ・スクール・ディレクター）と相談し、中学



地域の夏祭り（花火大会）で活躍する中学生

生は小学生の時よりも地域との結びつきが少ないという課題から、中学生をボランティアとして地域に送り出し、PTAとCSDは地域と中学生を繋ぐ役割を担うこととした。具体的には、地区のお祭りや高齢者訪問などの各種事業に対して中学生が関わることが可能な事業を地区内の団体に聞き取り、PTA公式LINEからボランティアを募集している。当日は参加可能なPTA役員が地区まちづくり協議会役員と中学生の間を取り持ち、後方からその活動を見守ることとした。ボランティア参加者には名刺サイズの「PTAボランティアカード」を手渡し、学校に提出したのち、本人に返却される制度を整備した。



保護者とともに防災講座を受ける中学生

【防災講座】令和6年に発生した能登半島地震やその後の豪雨災害など、多くの災害を目の当たりにするとともに、避難所運営をする中学生の存在や市内東部地域での水害に対して、市社会福祉協議会職員とともに地域の困りごとを一生懸命解決しようとする中学生の存在を知った。肉体的にもアイディアの面でも大人顔負けの行動力をもつ中学生を12月の地域防災活動前の休日に保護者とともに集め、市社会福祉協議会職員と市防災危機管理課職員を講師に迎えた「今、中学生に期待される防災活動」を開催した。

【子育て講演会】令和5年度、全国の小・中学校における不登校生徒は約34万6千人を数えた。学びの場の多様化の浸透を推進するため、市内においても「ふじ不登校サミット2024」が開催されるなど、学校に行くだけがすべてではないという認識も広がりつつある。一方で、当該保護者はそれまでの子育てに原因があったのか、自らを責め、誰にも相談できない孤独な時間を過ごしているという声も耳にした。本来、保護者同士の繋がりも目的として設置されたPTAにおいて、保護者も誰一人とり残さないことが求められており、課題解決型PTAとしてもその問題解決に取り組むこととし、「ウェルビーイングの実現を広見地区 丘地区から～学校 保護者 地域のつながり～」を開催した。

その活動を進めるにあたっては、センシティブな側面も持ち合わせていることから学校との綿密な相談はもちろん、市教育委員会や小児科医などと連携して事業立案をすることとした。その結果、不登校問題のみをクローズアップせず、小児科医や教育委員会指導主事、主任児童委員、保護者などをパネラーに迎え、「起立性調節障害」や「自己肯定感を高めること」などの子育て全般に関わる「子育て講演会」をオンライン・対面併用で実施するとともに、講演会終了後は「つながりタイム」として悩みを相談できるような時間も設けた。地区福祉推進会と共催して実施することで、不登校生徒や保護者が学校でなくても、地域内で誰かに繋がっているような事業とした。計画するうえでは令和6年に開催された第72回日本PTA全国研究大会「ウェルビーイングの実現を、川崎の地から～活かそう「縁」の力～」での学びが大きいことを申し添えておく。



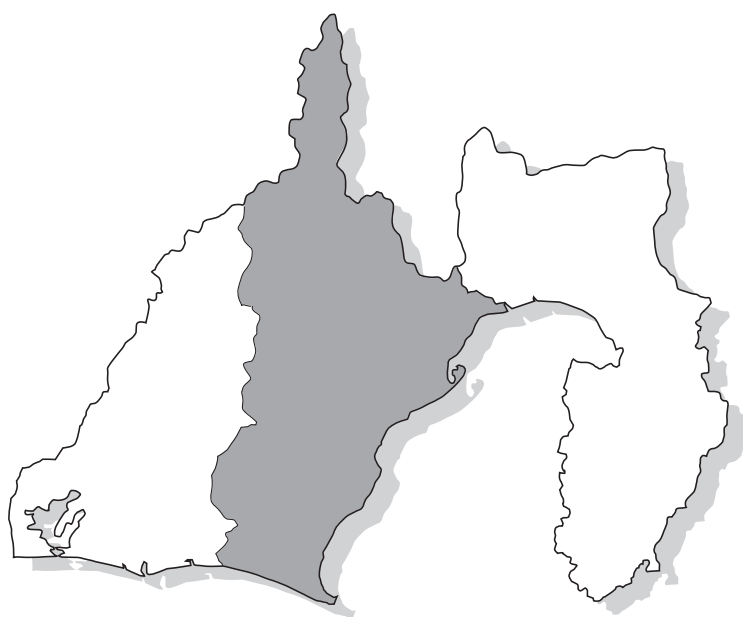
雨天のため 校内トイレ清掃に切り替えた奉仕作業 (フライヤー)



公式 LINE と Google フォームで参加者を募集 (フライヤー)

4 成果と今後の課題

具体的活動については前節で述べたとおりであるが、極論に聞こえるかもしれないが、PTA活動はなるべく前例踏襲ではないほうがいいと思っている。社会的環境、要請が大きく変化している時代において「前まではこうだった」とか「これまでやってきたことを変えないで」という意識では、PTAはどんどん社会的意識と乖離した組織になってしまう。単位PTAは常に会員の方々の声に耳を傾け、その都度、何が求められているのかを真摯に考え、行動していくことが求められている。



〈実践事例提供：中部地区〉

- 焼津市立焼津中学校
- 藤枝市立岡部中学校
- 島田市立金谷中学校
- 牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校

縁JOY！

～笑顔をつなぐPTA活動を目指して～

焼津市立焼津中学校 PTA会長 岡村幸治

1. はじめに

焼津中学校は1947（昭和22）年に新制中学として創立した77年目の中学校で、水産業が盛んな焼津市において、その中心的な焼津港を校区に持つ中学校です。焼津中学校の生徒は正門から入ると、「翔の像」の出迎えをうけます。この像は創立20周年の際に造られました。当時多くの漁船が自然の脅威の前に遭難する出来事があり、この像はそんな過酷な現実を受け止め、悲しみに打ちひしがれていた少年少女たちに、「世の荒波にもめげず、強く勇敢にはばたけ」という願いを込めて作られました。その像の思いのごとく、私たちPTAはさまざまな困難にも負けずはばたく生徒たちを見守る存在を目指しています。



翔の像ごしの校舎

2. 活動のねらい

19世紀のアメリカにて始まったPTA活動は子供たちの教育環境改善を目指して発足しました。最近では教育に関する情報交換、地域社会との連携、保護者同士の交流促進などの役割も担っています。ただ、生徒数の減少によるPTA会員の減少でこれまでと同じような役割はとてできない状況です。

今回会長を引き受けた際に、最初に総務会の方々にお伝えしたことがあります。「PTA活動ですが、一番は家庭、子供のこと、またお仕事もあります。ご自身にとって重要なこともあるでしょう。これらの用事がある際には気兼ねなく休んでください。ただ、生徒のためにPTAが解決しなければならないことがあった時、ここぞ！という際には何を差し置いてもぜひ集まっていただきたいです。」子供たちの笑顔がなくなってしまうわぬよう、子供たちを守っていくのがPTAの基本と考えます。

子供たちのためのPTA活動ですが、その活動が負担を感じ、いざという時に動けなくなるようなものでは今後成り立ちません。笑顔があふれエンジョイできるPTA活動を目指して、普段は負担を減らし、いざという時には結束できるような事が理想と考えます。

そこで、ここ数年は「コアになる役割は何であろうか？」という考えのもと、活動の再考を進めてまいりました。そのなかで、ミッションとして「笑顔をつなぐ」を掲げさせていただいています。

3. 活動の内容

焼津中学校PTAには、会長・副会長・部長からなる総務会と事業を行う部会があります。コアとなる事業継承と負担軽減という面より、令和5年度までに令和元年と比較し1部会削減し、総務会の会合を3回削減し年6回（引継は含まず）となりました。ただコロナ禍での事業中止などもあり、削減による影響は事業が完全に復活した令和5年度、6年度で確認する状況でした。そんな中での令和6年度の活動は次のようなものを行いました。

- ・総務会6回
- ・学年研修部（教育講演会の開催）
- ・広報部（広報誌2回発行）
- ・厚生事業部（バザーの開催）
- ・校外指導部（朝の挨拶運動8回、夏の街頭指導）
- ・体育部（リクレーション（バレー）大会）

・校内危険個所の点検

リレーション大会のバレーボールでは、親子バレーボール大会を開催いたしました。仮装で入場してくる子供たちや普段は運動をしている姿を見せない親たちが、真剣勝負を繰り広げました。近年はコロナ禍によりしばらく開催できず、そのまま廃止となってしまったところも多いと聞きます。ですが、このたび復活により親子、先生たちの笑顔をつなぐイベントとなりました。

広報部の広報誌作成では、予算軽減と印刷業者とのやり取りなどの負担軽減を目指し、ウェブ上での発行を目指し、紙媒体での発行の廃止を検討しました。本年度の実行を目指しましたが、印刷業者を通さないとやり取りは軽減されるが、編集の負担が増加する点、個人の機材では年度によってやれることばらつきができてしまうなどという問題点があり断念いたしました。ただ、次年度以降これらの問題がどのようにしたら解決できるかを検討し、専用の機材の購入などを提案し、実現できるように計画を立てました。

校内の危険個所点検では、これまで教員のみで行っており負担になっていたものをP T A総務会で行い、負担軽減を図るとともに、子供たちの学習環境がどのようなものなのかを確認できる機会となりました。



総務部会



バレー大会

4. 成果と課題

先ほど挙げた事業は、これといって特色ある活動ではないかもしれませんが、それぞれ原点である教育環境改善を目指したものと、親たちと生徒が触れ合え、笑顔があふれる事業となりました。参加された方々の開催後アンケートではおおむね好評で、部会・会合等の削減は影響なく負担減と、笑顔につながる事業が開催できたと考えます。

ただ、P T A会員の負担感は生徒数の減少と共にますます進んでいくものと考えます。学校内のP T Aだけでは役割を担えない時代となって行くと考えます。役員のなりて不足も深刻であり、さらなる部会の見直しとともに、今後は地域と共に学校活動を見守るコミュニティースクールとの連携をはかるなど、様々な可能性を取り入れて行きたいと考えます。

仲間と共に協力し、達成する喜びを伝えよう

～共に 考え 動くPTA活動～

藤枝市立岡部中学校 教頭 岩 本 昭 恵

1 はじめに

岡部中学校は、昭和22年に開校された志太郡朝比奈村立朝比奈中学校と、同年に開校された志太郡岡部町立岡部中学校を昭和55年に統合し、岡部町立岡部中学校と称し統合して開校された。その後、平成21年1月1日に岡部町と藤枝市との合併により藤枝市立岡部中学校と改称した歴史をもつ。

学校の北東部は静岡市、南部は焼津市に接しており、東西北を山に囲まれ中央部を南北に朝比奈川が流れる美しい自然に恵まれた学区である。

岡部地区3校は「自立 共生 郷土愛」という小中学校共通の学校教育目標を掲げ、本校の学校重点目標「共に 考え 動く ―挑戦・貢献・夢―」の達成に向けて、地域や保護者から信頼される学校の実現に努めている。



地域における教育への関心は高く、地区自治会を中心に組織的に祭典等を毎年開催している。朝比奈地区や岡部地区のまつりや小学校の運動会に中学生もボランティアとして参加しており、藤枝市内で一番多くの生徒が社会福祉協議会のボランティア保険に加入するなど、地域とのつながりに強い思いをもって行動する生徒が多い。

夏休みには、岡部地区の保育園や幼稚園へ読み聞かせのボランティア活動を継続的に実践している。令和5年度からは、地域貢献活動として、各学年で地域の福祉施設へ合唱を披露したり、保育園や幼稚園に行って普段できない掃除をしたりするなど、重点目標達成のために、毎年工夫した活動に取り組んでいる。

2 活動のねらい 令和6年度PTA活動方針「仲間と共に協力し、達成する喜びを伝えよう」

【活動方針の基本的な考え方】

「相手の気持ちを考え、相手の心に寄り添う」中学校生活を通じて、共に笑い、共に泣き、共に喜び成長してほしい。そんな中学校生活をサポートできるようなPTA活動ができるように努力したい。

【重点目標】

①子供たちの目線で

子供たちの素直な心の声を聞くことで、子供たちが真剣に取り組める環境を作る。

②協調性、コミュニケーション

何事もひとりの力では達成できない。学校、地域とのスムーズな報告、連絡、相談により色々な意見交換をする。

③伝統と時代変化の調和

過去の活動を参考にし、時代の変化に合わせることで新しい取り組み、または新しい考え方にも挑戦する。

3 活動の内容

5月1日にPTA総会（集会とオンラインというハイブリット方式）で開催した。そこで、活動方針や重点目標についての説明を行った。その後、運営委員会等で会長から、時代に応じた活動内容の検討や活動の見直しなどを協議した。

PTA運営委員会では、奉仕作業の受付や生徒が名簿をチェックする、運営委員会の参加も正副部長のどちらかに削減する、学年委員の仕事を減らすなど、できる範囲で無理のない活動にするために、仕事内容の見直しを実践した。

- ・学年委員は、あいさつ運動を担当し、各学級で年間1回、年度当初に日時を設定して無理のない範囲で実施している。
- ・指導育成部は、祭典補導を担当し、祭典終了時刻の15分前に集合して帰宅を促すようにしている。
- ・施設体育部は、親子奉仕作業を担当し、奉仕作業の計画、通知、当日の用具の準備、運営等を担っている。
- ・広報教養部は、体育大会や音楽発表会の行事で撮影をお願いしている。またPTA広報誌の作成にも携わっている。

新たな取組

- 音楽発表会は、保安係4名駐車場係2名を1時間ごと分担
- 音楽発表会は、広報教養部用の移動しやすい座席を確保
- 音楽発表会は、PTA役員全員に指定席を確保し優先駐車券を配付
- 体育大会は、PTA役員のみ優先駐車券を配付
- 広報教養部の写真データ、カメラは学校で保管

次年度に向けた見直し

- ・学年委員を廃止し、学年で3名の学年会計監査をお願いする
- ・あいさつ運動の名簿チェックを廃止、襷は各自装着
- ・音楽発表会は、PTA役員全員に指定席を確保、優先駐車券を配付
- ・体育大会は、PTA役員全員に優先駐車券を配付、会長挨拶の廃止
- ・親子奉仕作業は、年間1回とし全校一斉に実施



4 成果と今後の課題

【成果】

『共に 考え 動く』という学校の重点目標と「時代の変化に応じた活動」というPTA活動の重点目標が達成できるよう、年度内の運営委員会にて協議や検討を重ねながら、途中で活動内容を少し見直すことができた。さらに、運営委員会も計画的に提案することで、年度途中で1回減らすことができた。これらの見直しは、運営委員の負担軽減につながったのではないかと感じている。また、実際に活動しながら「次年度も活動する必要があるかを検討しながら活動する」ことを事前に提案できたことは、次年度の活動の精選に効果的であったと言える。

さらに、各部への負担軽減を行うと同時に「役員だから優先駐車券をもらえるという優遇される面がある」という思いも味わってもらえたのではないかと感じている。

【課題】

PTA会員からの脱退等が問題になっている昨今は、「できる範囲でその場で手伝いを依頼するボランティア形式で活動する学校」「役員履歴をポイント制にする学校」など、様々な形で持続可能な活動への取組が実施されていると聞く。

本校も、令和7年度から1年生の通常学級が2クラスになることから、PTA役員数も減っていくことが予想される。今年度、運営委員会で議決できる範囲の仕事内容の見直しを実践したが、活動に対する課題を挙げながら、役員の在り方や見直しなど考えていく必要があると思う。PTA活動の本来の意義である保護者と教職員が子供のために活動することを、無理なく楽しく持続していくためには、本当の意味での「共に 考え 動くPTA活動」は今後も必要不可欠であるため、様々な声を聞いて、子供たちにとってよりよい環境づくりに貢献していきたいと思う。

未来への資質・能力を育む「共育」環境づくり

島田市立金谷中学校 校長 滝 下 祥 央

1 はじめに

教育は、「共に育てる」と書く「共育」でもあると常々考えています。子供は学校だけでなく、家庭や地域など多くの環境の中で学び育ちます。その環境には、当然、地域のもの・ことやそこに住む人々が入ります。この「共育」の環境づくりが、PTA活動やコミュニティ・スクールの本質なのではないかと考えています。

ところが、日本は世界に先駆けて急激な人口減少期に入っており、これまでの人口増加期に築き上げてきた社会経済システムが、もうこれからの時代に合っていないという課題を突きつけられています。また、コロナ禍という世界規模の危機の襲来によって、現代社会が抱える問題があらわになり、浮き上がってきた様々な問題を解決するため、2024年には既存の枠組みを一度白紙に戻し、全く新しいシステムを構築する「グレート・リセット」があらゆる分野でなされ始めています。このことは、教育の分野でも無関係ではありません。保護者や地域の方々の働き方も変わったり、私たち教職員も学習指導要領の全面改訂による授業改革やそれに伴う働き方改革が求められていたりしています。そのため、PTA活動の改革も必然的になってきました。しかし、その多くが少子化や参集できない場合に対応するための会則の改訂であったり、活動規模の縮小及び活動内容の効率化であったりするように思います。

ただ、それだけでは、冒頭に述べた「共育」の本質に迫ることはできないのではないかと考えています。もちろん、本来、行政がすべきは資金や物資の調達のための活動は縮減すべきだと私も思っています。しかし、もっと課題なのはコロナ禍を経て、さらに減ってしまった子供たち同士で社会性を学ぶ機会の創出が、より難しい状況になっていることです。ですから、子供たちの育ちを保障する様々な「共育」の環境づくりに焦点を絞ったPTA活動の改革が必要なのではないでしょうか。

2 活動のねらい

そんな時代や未来を生きる子供を育てる大人としては、子供にどんな能力を身に付けさせたらよいか大いに気になるところです。現在、社会では技術革新も頻繁に起こり、これまでの常識や行動様式をアップデートしなければならなくなっています。中でも、最も注目されるのがAIの台頭です。AIが得意とするのは、ビッグデータを基に学習し、適切な答えを見つけ出すことです。ですから、既存の分野においてはAIと競ってもかないません。となると、これから求められるのは、主体性を発揮しながら意味を深く理解し、自らの体験に基づいて想像力を働かせて、未知の世界をより深くイメージできる力を付けることです。

そのためにも、幼少期や青年期には、自然や地域の環境で様々な体験をすることで、思い切り遊ぶことや夢中になって取り組むことが大切となります。子供たちが大きくなって主体的に動くためには、自発的に動くことを十分経験している必要があるからです。子供の頃は大人の言う通りに動くことばかりを求められ、大きくなったら突然「自分で判断して行動しなさい」と言われても、子供は戸惑うばかりでしょう。つまり、自発性や集中力を身につけるには、幼少期や青年期に思いっきり遊ぶことや夢中になって取り組むことが必要なのだと思います。

また、この経験によって、言葉や概念を実体験に結びつけて理解できるようになり、言語能力や感性も磨かれます。さらには、体験の中で仲間とかかわることで人間関係が豊富になり、人の気持ちに対する共感性や洞察力が身に付き、それが人間関係調整能力にもつながっていくということもあります。かつての子供たちが自然に経験していたようなことが、実はとても意味のあることだったと今更ながら感じています。

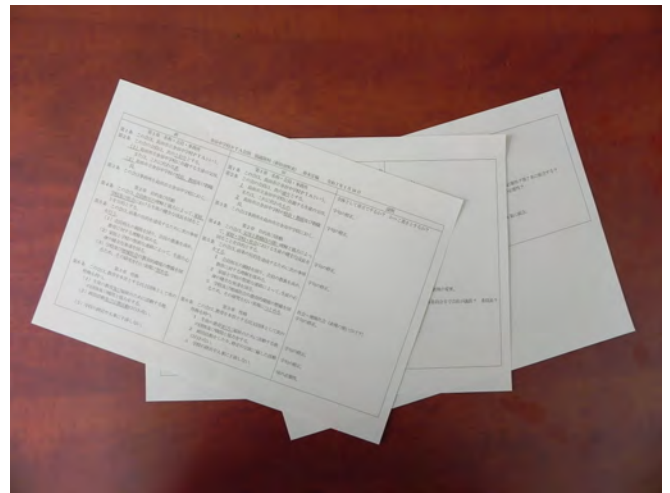
このことをPTA本部役員の方々を中心に共有してもらいました。そこで、PTAの会則や活動内容の見直しに合わせ、子供たちを夢中にさせる「共育」環境づくりをねらいとし、来年度に向けた新たな企画内容を検討しています。

3 活動の内容

本年度は、先にも述べたようにPTA活動の見直し及び改革の元年度と位置づけ、内容というよりは対話する機会を

より多く設けて検討を重ねてきました。PTA本部会の活動は以下のようになります。

- 4月5日（金）：入学式参列
- 4月9日（火）：第1回本部役員会
- 4月16日（火）：PTA委員総会
- 4月26日（金）：懇談会・第2回本部役員会
- 5月10日（金）：市PTA連絡協議会
- 5月18日（土）：環境整備作業（1年生保護者と）
- 9月7日（土）：市PTA研修会
- 9月19日（木）：第3回本部役員会
- 11月5日（火）：第4回本部役員会
- 11月10日（日）：全校資源回収
- 12月10日（火）：臨時本部役員会
- 1月16日（木）：臨時本部役員会
- 1月21日（火）：第5回本部役員会
- 3月7日（金）：運営委員会・第6回本部役員会（新旧引き継ぎ）
- 3月19日（水）：卒業式参列・PTA会計監査



会則の見直し



環境整備作業



全校資源回収

4 成果と今後の課題

学習指導要領の全面実施に向けた教育改革への取組や働き方改革への取組により教職員の参加に制限がある中、PTA役員の方々には、活動への準備・運営、見直し案の作成や会議等、労を惜しまずに取り組んでいただいたことに感謝しています。子供たちが夢中になりながら「活動のねらい」に記したような力を獲得していけるようにしようとしているのですから、私たち大人こそが、その力の発揮に向けて、主体的に積極果敢に挑み続けている姿を見せなければならいと思います。そのことをPTA本部役員の方々と共有し機運が高まったことが、今年度の活動の大きな成果であると言えます。

課題としては、来年度、この活動をどう具現化していくかが挙げられますが、本校の役員の方々や保護者の方々の協力体制から、その環境は整っていると感じています。子供たちは、未来の地域の担い手です。将来、遠く離れる子ども、地域は心の拠り所になります。改めて、PTA活動は、「共育」の環境づくりを考える上で大きな力だと感じています。

子供たちの未来のために

牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校 教頭 石 間 郁 代

1 はじめに

(1) 地域の実情

本校は、明治41年の学校創設から令和6年度に116年目を迎えました。地域からの学校への関心が高く、児童や学校を地域の一部として地域行事への招待や学校の参観等交流も盛んです。学区は、牧之原市と菊川市をまたいでいます。近年は、富士山静岡空港の開港や東名高速相良牧之原ICの開設、国道473号バイパスの整備などにより流通や商工業の産業も発展しつつあり、保護者の中にもこうした新たな産業に携わる方や交通の利便性を利用し近隣の市町に勤める方も増えています。さらに、牧之原市の高台開発が進むことで他地域から転入する家庭が増えることが予測されています。



校舎

(2) 保小中の連携

牧之原保育園、牧之原小学校、牧之原中学校が隣接していることにより多くの利点があります。中学校行事参観や6年生の中学校体験デーにより、近い未来のイメージづくりが安定につながっています。中学生の行事や自治的活動の準備や運営、授業に真剣に臨む様子などを実際に見ることができるので、小学生にとって授業や活動づくりに大いに参考になります。また、生活科などで保育園児と交流することもあり、思いやりの心を育てています。

2 活動のねらい

P T A活動についても保護者や地域の方々には理解があり、大変協力的です。令和6年度からは、会長、副会長、専門部長・副部長等で構成するP T A理事を10名から9名に減らし、さらに活動を精選してきました。子供の安全と幸せを願い、年に4回のP T A理事会で何ができるかを話し合い進めています。

牧之原小P T A組織は、5つの部で構成され、活動を行っています。主な活動は①本部：P T A事業全般の企画・運営 ②施設厚生・安全部：奉仕作業の企画・運営、あいさつ運動の推進 ③文化部：各行事の写真撮影、ホームページの更新 ④学年部：学年懇談会のテーマ決め・司会進行 ⑤家庭教育学級：学級生主導で交流を図るための行事の企画・運営となっています。

3 活動の内容

(1) お弁当の日

牧之原小学校では、「お弁当の日」が年に1度P T A活動として設定されています。買い物から工夫あふれる創作弁当作りまで、子供たちと保護者は腕によりをかけて楽しくお弁当作りに取り組みます。子供たちは4つのコースから選びます。

Aコース「チャレンジコース」・お弁当のすべてをお家の人の力を借りずにすべて自分で作る。

Bコース「親子で弁当コース」・お家の人といっしょにお弁当を作る。

Cコース「おにぎりコース」・おかずはお家の人に作ってもらい、おにぎりだけ自分で作る。

Dコース「ありがとうコース」・お弁当を作るのはいつものようにお家の人だが、残さず全部食べて、家に帰ったらちゃんと「ありがとう。」を言う。

出来上がったお弁当を食べている様子をP T A文化部の部員が撮影し、ホームページにアップします。家庭生活の中で食に関心を持ち、親子で楽しい時間を過ごせると保護者や子供たちに好評な活動です。

(2) 小中合同奉仕作業

牧之原小学校は牧之原中学校と隣接しているため、P T A活動も合同で行っているものがあります。その1つが9月に行われるP T A奉仕活動です。小中学校の保護者と教職員、中学生で行われ、運動会前のグラウンドとその周辺をみんなの力できれいにしました。牧之原小学校・牧之原中学校では、上グラウンドと下グラウンドと呼ばれる2つのグラウンドを用途に応じて使っています。その2つのグラウンドの草取りや普段できない側溝の掃除なども行いました。真剣に作業し、見違えるようにきれいになると皆さんの笑顔が見られました。小学校と中学校の分担はありますが、早く終わると手伝うといった分け隔てなく協力し合うのが牧之原小学校及び牧之原中学校P T Aのよいところ です。



中学生とともに保護者が整列



作業に取り組む保護者の皆さん



(3) 授業参観の日

令和6年度は、保護者授業参観が4回行われました。そのうちの1回はリモート参観です。コロナ禍に参集できなかったことをきっかけに始めました。リモート参観では、保護者はスマートフォンやパソコン等で参観します。仕事を休まなくても合間の時間で授業参観ができると保護者から好評だったので、コロナ禍が終わった今でも続けています。また、子供たちは保護者が授業を見に来ると緊張したり少し背伸びをしたりしていつもと違った姿を見せますが、リモート参観だといい意味でいつもどおりの姿が見られるという意外な利点も保護者からあげられました。

(4) 運動会へのP T Aの協力

運動会は、準備から片づけまで保護者の皆さんが手伝ってくださります。学校運営協議会の委員の皆さんと共に朝の駐車場係、テントの設営や片付け等に積極的に取り組んでくださるのが伝統です。教職員が児童の対応をしている間に、保護者の皆さんが協力して動いてくださるので大変ありがたいです。P T A文化部の皆さんが、各種目の写真撮影やホームページのアップもしてくださり、教職員の負担軽減につながっています。

(5) 親子給食

家庭教育学級の実践ではありますが、保護者から「子供たちの給食の配膳の様子を見たい」「子供たちと一緒に給食を食いたい」という声があり、親子給食が実現しました。保護者役員と牧之原中学校在籍の栄養教諭が連携し、場所の設定、給食数の確認等を行いました。当日は、6年生の修学旅行で空いた教室や図書館も使用し、親子で席を並べて食べました。メニューは保護者のリクエストで「ソフト麺」でした。子供たちと保護者の皆さんの笑顔があふれる時間となりました。保護者からは「久しぶりの給食がとてもおいしかった」「子供と給食を食べられていい体験だった」という感想が聞かれました。



親子給食 楽しく食事

4 成果と今後の課題

P T A活動を核として、学校と家庭・地域をつなぎ、未来を生きる子供たちの健全な育成に向けての諸活動が行われています。これからも、重点目標『みんな幸せ～勇気と優しさがあふれる学校～』に向かい、保護者と地域、教職員が一体となって、子供たちの未来のために力を合わせて、P T A活動を進めていきたいと思っています。



〈実践事例提供：西部地区〉

- 森町立宮園小学校
- 磐田市立豊岡南小学校
- 袋井市立袋井南小学校
- 湖西市立白須賀小学校
- 浜松市立浜北北部中学校

学校のために、今できることを少しでもやっていこう

～保護者と学校が無理なく連携を深めることができる活動推進を目指して～

森町立宮園小学校 P T A 会長 加 藤 孝 尚

1. はじめに

森町立宮園小学校は、「遠州の小京都」と呼ばれる森町の南にある全校児童265人の学校です。学区は一宮地区と園田地区に分かれ、南北に広がっています。緑豊かな自然に囲まれ田や畑が多く、森町特産の米、トウモロコシ、柿、レタスの栽培が盛んに行われています。校区内にある「小國神社」では、毎年4月に、一宮地区に伝わる民俗芸能の舞楽である「十二段舞楽」が行われています。本校児童の中にも、舞楽に参加する児童がいます。

地域の方の学校への関心も高く、生活科・総合的な学習をはじめ、図書館ボランティア、花壇ボランティア、読み聞かせボランティアなど、たくさんの地域の方々が来校し、子供たちのために日々活躍していただいています。

2. 活動のねらい

宮園小学校のP T A実践目標は「互いに あいさつ 生き活きと」です。実践目標を達成するために以下の5点に力を入れています。

- (1) 「あいさつありがとう」を進めよう。
- (2) 授業参観・懇談会に積極的に出席しよう。
- (3) 子供の生活リズムを整えよう。
- (4) 家庭学習を充実させよう。
- (5) 健康な体づくりをしよう。

コロナ禍で、P T Aの活動が精選、見直しをされてきました。P T A実践目標を達成するために、大々的な活動を行うのではなく、「学校のために、今できることを少しでもやっていこう」という気持ちで、保護者に呼び掛けを行ったり、活動に参加したりしています。

3. 活動の内容

(1) あいさつありがとう

宮園小学校では、毎月、5日、15日、25日を「あいさつありがとうの日」としています。この日は、保護者だけでなく、地域の方も、集団登校の集会所や学校の正門前など、校区の様々な場所であいさつ運動を行います。「あいさつは一人一人を認める大切なものである」ということを学校・家庭・地域が共通理解し、あいさつ運動に取り組んでいます。この活動を通して、保護者や地域の方々が子供たちを見守るだけでなく、子供たちのあいさつの声から元気をもらうというよい伝統が引き継がれています。



あいさつありがとう

(2) リモートによるP T A総会

令和5年度から、P T A総会をリモートで行っています。P T A総会は例年、4月の参観会・懇談会の日に行われてきましたが、慌ただしい日程の中で体育館へ移動したり、先生方に会場準備をしてもらったりと負担が大きいため、会場を各学級の教室とし、リモートで行うようにしています。



リモートによるP T A総会

(3) 美化作業（奉仕作業）・資源回収

宮園小学校は周りを緑に囲まれています。特に夏から秋にかけては、校舎や運動場の周りにたくさん雑草が生えます。6月は1組の保護者、9月

は2組の保護者という役割分担で美化作業を行い、子供たちのために、学校の環境整備を行っています。

その他にも、学校のために保護者が協力できる活動として、5月と1月に資源回収を行っています。P T A生活部が中心となって各地域で新聞や雑誌の回収を行い、学校近くの園田防災センター駐車場でコンテナへの積み込み作業を行っています。



美化作業



資源回収

(4) 交通安全を語る会

宮園小学校の交通安全リーダーである6年生の意識を高めるために、毎年6月に行っています。この会にはP T A生活部だけでなく、一宮駐在所の警察官や交通安全指導員も参加し、子供たちを主役として通学路の危険箇所や自分たちの登校の様子をチェックする中で、自分たちに何ができるか考える活動を行っています。P T A生活部が保護者代表として参加する中で、自分の地区の子供の様子を把握したり、通学路の危険箇所について理解を深めたりしています。



交通安全を語る会

(5) 運動会のサポート

P T A生活部が中心となって、運動会当日の朝、保護者駐車場の交通整理を行っています。1日開催で行われていた運動会が、新型コロナウイルスの流行とともに見直され、半日(午前中)開催となりました。先生方を見ていると、運動会終了後、昼食、午後の授業と、会場の片



運動会 保護者駐車場整理



運動会 会場片付け

付けを行っている時間が十分にありません。学校からの要望もあり、閉会式終了後、会場の片付けの手伝いを保護者に呼び掛けました。たくさんの保護者に協力していただき、短時間で会場の片付けを行うことができました。

4. 成果と今後の課題

令和6年度も特に大きな課題なく、活動を進めることができました。P T A活動が保護者にとっても、学校にとっても負担になってはいけないと考えます。その点では、現在のP T A活動が量的にも質的にもちょうどよいバランスに保たれていると思います。

宮園小学校も、今後、児童数の減少が見込まれます。それに伴いP T A会員数も減少します。現在行われているP T A活動も、数年後には成り立たなくなる可能性があります。つまり、先を見据えたP T Aの組織づくりや活動の精選が必要になります。今後も、P T A会長の経験をもとに、「学校のために、今できることを少しでもやっていこう」という気持ちを大切にしながらP T A活動に携わり、保護者と学校が無理なく連携を深めることができる活動を推進していきたいと思っています。

ひろせっこ しょうぜ！

～みんなの笑顔と夢をつなぐ～

磐田市立豊岡南小学校 PTA会長 秋山玉光

1 本校の実態（はじめに）

本校は学制発布に伴い、明治8年10月、野部学校分校上神増学校を慈眼寺内に設けたことが起源となっており、令和6年に創立149年を迎えました。

地理的には、磐田市北部に位置し、西は浜松市、東は森町、袋井市と接しています。北には新東名高速道路がほぼ学区の境と重なり、合併前の豊岡村広瀬地区に位置し、現在は13の通学区で構成されています。西側を流れる天竜川に沿う集落は、かつて暴れ天竜と言われた頃の河川敷上に形成されています。全体に田畑が広がる田園地帯で、米や海老芋、赤しそ、白ネギなどを栽培しており、特産品となっています。また、近年は大きな工場や商業施設が進出したことに伴い、地域の生活環境にも変化が生じつつあります。とはいえ、地域には豊かな自然と古くからの社会共同体の意識が残り、三世代の家庭が多く、学校に対する協力を惜しまないよさがあります。



校舎全景

2 本年度の方針

本年度のPTAの活動方針は『「ひろせっこ※ しょうぜ！」～みんなの笑顔と夢をつなぐ～』です。これは、保護者も子供（ひろせっこ）の目線に立ち、PTA活動そのものを楽しみながら行うことで、ひいては子供たちのよりよい成長につながってほしいという思いが込められています。

本校は、令和7年に創立150周年を迎えます。節目となる来年を見据え、保護者・学校が連携しながらPTA活動が無理のない範囲で行いつつ、地域全体にもPTA活動のうねりを広め、子供たちのよりよい成長を支えていけるようにしたいと考えました。

その一方、コロナウイルスによる活動制限からの見直しや、学校と保護者・地域とのつながりの再構築、児童数減少に伴うPTA会員数の減少、保護者の就労状況の変化等により、これまで行ってきた組織・活動が困難になってきている状況にも対応する必要もあります。

（※ひろせっこ…旧豊岡村時代、本校が広瀬地区にあったことから、名付けられました）

3 本校の取組

(1) 資源回収

回収された資源の収益を、子供たちの役に立つものにするため、本校では、年2回行っています。PTAと学校職員が中心となって行っていますが、実際には、地域や各家庭の前などに置かれた資源を保護者が回収し、学校に運んだものを役員や学級委員、職員が協力しながらコンテナに移しています。

1回目は6月に行いましたが、近年の気候変動（温暖化）に伴う暑さによる身体的影響を考え、昨年からの引継ぎにより、休憩時間を入れた運営方法を心掛けました。



資源回収の様子

(2) アルミ缶回収

前述のとおり、今後、児童数減少に伴うPTA会員の減少は、PTAとしての収入減につながります。そのため、

地区委員と本部役員とで構成される「PTA運営委員会」において、年間2回の資源回収で得られる収益金に加え、普段から親子でできることはないか検討しました。

その結果、アルミ缶の回収が、親子で取り組める手軽なものであること、環境に対する子供たちの関心も高まること等をふまえ、12月に開催した参観会・懇談会から試験的に行ってみることにしました。そして、保護者・地域にも広く知っていただくため、学校だよりにてPTA会長としての思いを掲載し、協力を呼び掛けました。その結果、協力してくださる方が多く、たくさんのアルミ缶が集まりました。今後も学校と協力しながら少しずつ広めていきたいと思っています。

日頃より、PTA活動に御理解と御協力いただきまして、ありがとうございます。
先日、学校から配付された「参観会の案内」でもお伝えしましたが、PTA本部役員・運営委員から、アルミ缶回収のお願いです。

「無理のない範囲で児童・学校のためにもっと何か出来ないか？」と考えていたところ、「保護者が来校時の“ついでに”アルミ缶を持って来る」という活動を、他校が行っているのを知りました。

そこで、試験的に12月6日の参観会から、アルミ缶の回収を行います。今後は、保護者が来校する学校行事を行う予定です。

子供たちのリサイクル意識向上の為に、ゆくゆくは児童・保護者・地域の方関係なく、いつでも回収出来る体制を作りたいと考えています。

保護者の方の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

なお、持ってくる際は…

- ・子供に持たせても大丈夫です。安全のため、両手がふさがらないよう御配慮ください。
- ・アルミ缶の回収ボックスは、児童昇降口付近に設置します。
- ・アルミ缶は洗って、つぶして御持参くださるようお願いいたします。

学校だよりに掲載



アルミ缶回収の様子

(3) 中庭再生プロジェクト

かつてビオトープとして、子供たちの遊び場の1つとなっていた中庭を、PTA・地域が中心となって再生し、子供たちが昼休みや自然と触れ合う授業の中で活用できるようにするため、「中庭再生プロジェクト」を立ち上げました。令和6年は、年間の活動計画に位置付けられていた9月の奉仕作業を、地域の方・保護者有志にも呼び掛け、行うようにしました。PTA・地域・さらに職員も協働して行ったこの取組は、メディアにも取り上げていただく契機となりました。



再生前の池の様子



奉仕活動の様子



新聞に掲載

4 成果と課題（終わりに）

- ・中庭再生プロジェクトは、子供たちの「自分たちもできることをやってみよう」という意識を高めることにつながりました。その結果、縦割りグループを活用して中庭の草取りを行ったり、6年生が池の中の砂泥を取り除く活動を、自主的に行ったりする姿が見られました。
 - ・社会全体を取り巻く変化により、価値観の多様化に伴うPTA組織の在り方、持続可能な活動への改善等、年単位で検討を重ねていかなければならない課題があります。
- その1つの解決策として、教育活動とPTAとしての活動（例：参観会とアルミ缶回収）を結び付け、「来校するついでに…」といった内容に工夫改善を図るなど、保護者が「やってみようかな」と思えるよう、ハードルを下げ、参画意識を高める必要を感じています。

時代に合った 持続可能で“わくわく”するPTA活動に

袋井市立袋井南小学校 教頭 藤下 恵里

1. はじめに

袋井南小学校は、袋井駅近くに位置する児童数598人、学年3クラス編制の学校です。令和5年度には、創立150周年を迎えました。校区は、幼児教育施設や小・中学校、高等学校及び市立図書館がある文教地区となっており、地域をあげて学校教育に理解があり、大変協力的な地域です。

平成13年度の愛野駅開業以来、同駅周辺の商業地化及び宅地化が顕著となっています。また、現在行われている袋井駅南の開発に伴い、学校周辺の交通事情が大きく変わることが予想されており、登下校時の児童の安全確保について再検討の必要性を感じています。



袋井南小 校舎

2. 活動のねらい

本校のPTA活動は、子供たちの安全で明るい環境づくりのために、学校と家庭、地域の方々と連携して主体的な活動を行っていくことをねらっています。また、子供たちが置かれている社会環境は急激に変化しているため、この環境の変化に対応したPTA活動が必要となっています。

これらのことを踏まえ、袋井南小学校PTAでは、PTA組織の再編を行うとともに、時代に合った 持続可能で“わくわく”するPTA活動にしていきたいと考えています。

3. 活動の内容

① PTA活動の原点に立ち返る

社会環境は急激に変化しているにも関わらず、これまで引き継がれてきた活動は、PTA会員にとって負担が大き

【資料】PTA組織の再編について

R6 袋井南小学校PTA

現状の課題

● 役員のなり手不足

● 役員の負担・業務の偏り

● 役員地域の偏りによる地域との連携不足

● 活動内容が時代に合っていない

● 子供や地域のための活動になっているかが疑問

再編の目的

◎ 持続可能なPTA活動・PTA組織へ

◎ 時代に合ったPTA組織へ

PTA

令和6年度の各部の計画案

※R6年度は人員数は変更せず、活動内容の見直しを優先的に検討

※R7年度は人員数の増減可否を検討

現在の主な活動	本部（5人） ・PTA運営委員会 ・PTA総会 ・あいさつ運動開始 ・指名委員会 ・次年度本部役員候補者選考 ・「南っ子よい子の5か条」についての話し合い ・新旧引継ぎ会	(現) 学年研修部(38人) ・懇談会の企画・運営	(現) 広報部(9人) ・広報「みなみ」作成・HP掲載（取材、原稿依頼、編集、校正）	(現) 健康部(6人) ・健康部だより作成・発行 ・環境整備(白衣の点検整備、学校図書清拭) ・南の丘学園学校保健委員会参加	(現) 環境部(16人) ・資源回収 ・奉仕作業	(現) 安全生活部(9人) ・児童通学路危険箇所実態調査 ・交通安全リーダーと語る会参加 ・通学班編成 ・「子ども110番の家」訪問 ・登校見守り当番編成
---------	---	---	--	--	--	---

新組織	本部（5人） 指名委員会から選出されたメンバーで構成 会長、副会長2名、母親代表、会計	学年部（38人を予定※クラス数により変動有） ※現学年研修部・健康部・広報部の活動を行う 各学年から選出されたメンバーで構成 全体の正副は6年生保護者より選出	地域部（40人を予定※生徒数により変動有） ※現環境部・安全生活部・広報部の活動を行う 各地域から選出されたメンバーで構成 全体の正副は6年生保護者より選出
新任務	児童の健全育成と教育環境の向上を目指すために、PTA活動全体を運営する。	児童の健全育成に必要な事業を行う。	児童の安全と教育環境の向上に必要な事業を行う。
新活動内容（案）	①PTA運営委員会 ②PTA総会 ③あいさつ運動推進 ④指名委員会・次年度本部役員候補者選考 ⑤「南っ子よい子の5か条」の代替案検討 ⑥PTA本部の活動の様子をHPにアップロード	①懇談会の企画・運営 ②学校保健委員会への参加 ③PTA学年部活動の様子をHPにアップロード ④楽しんで活動できる新企画の検討	①資源回収 ②奉仕作業…廃止 ③登下校の安全推進 ・交通安全リーダーと語る会 ・「子ども110番の家」訪問 ・通学班編成 ・登校見守り推進（旗振り等） ④PTA地域部活動の様子をHPにアップロード

く、「役員のなり手不足」「役員の負担・業務の偏り」「役員の地域の偏りによる地域との連携不足」「活動内容が時代に合っていない」「子供や地域のための活動になっているかが疑問」といった声が多く聞かれました。

そこで、PTA活動の本来のねらいに立ち返り、PTA組織の再編と活動内容の見直しを図りました。PTA組織再編については、「学年研修部・広報部・健康部」を『学年部』とし、「環境部・安全生活部・広報部」を『地域部』としました。ただし、今年度は役員数を敢えて減らさず、昨年度同数の人数に保つことで、一人がやるPTA活動の内容や回数を減らすことにしました。さらに、内容については、時代に合ったものになるよう「PTA広報誌の廃止」「PTA健康部だよりの廃止」「資源回収の活動方法・回数の見直し」などを行いました。また、「PTA奉仕作業」については廃止し、CSDによる呼び掛け型と形を変え、可能な人が参加するものにしました。

② “わくわく”するPTA活動～「よみがえれ！学校山プロジェクト」「食育推進事業～給食試食会～」

○「よみがえれ！学校山プロジェクト」

「資源回収の収益金は何に使われているか分からない」「もっとみんながPTA活動に楽しく参加できたらいいのに…」こんな保護者の声から、「よみがえれ！学校山プロジェクト」と題して、資源回収（コンテナによる回収を含む）で得た収益金を使って、子供たちが大好きな学校山の保全に役立てようというプロジェクトを行いました。その第一弾として今年度は、資源回収の収益金を展望台のリニューアルに充てるという企画を行いました。この活動により、家庭での環境教育と結び付けることや、学校山の環境保全に役立てることもでき、“わくわく”につながったように感じています。



学校山の展望台

○「新企画！食育推進事業～給食試食会～」

「子供たちが、学校給食がおいしいって言うから、食べてみたい！」そんな保護者のつぶやきから、PTA学年部希望制で、「新企画！食育推進事業～給食試食会～」を計画しました。誰にとっても負担が少なく、楽しんで活動するにはどうしたらよいか、また役員になったメリットが感じられる活動にしたいという思いから初めて実施しましたが、参加した方からは、「大変よい企画だった」と感想をいただきました。また、子供たちの食事の様子を参観することで、その後行われた懇談会の話題提供となり、食育について考える機会となりました。

4. 成果と今後の課題

「PTA活動の縮小」ではなく、本校では、「時代に合った」「持続可能で」「“わくわく”する」をキーワードに据えたことで、本校に合ったPTA活動に変わってきたように感じています。またこれまで受け身であったPTA活動が、少しずつPTA発の自発的な活動に変わり、PTA活動本来の姿に近づいたように感じます。

今後も、子供たちのために、PTA会員が「やってよかった」「楽しい」と思うことができるPTA活動を目指していきたいと考えています。

持続可能なPTA活動と地域との連携

～無理なく 無駄なく 難しくなく～

湖西市立白須賀小学校 教頭 古田 善太郎

1 はじめに

静岡県最西端の湖西市は、浜名湖や遠州灘を漁場とした漁業・市内各地で収穫される多種多様な農作物や畜産といった農業・自動車の組み立て工場やEVに欠かせないバッテリー工場という工業がバランスよく分散しています。また、湖西連峰や浜名湖、遠州灘というように山、湖、海の多様な自然に囲まれた人口約6万人の市です。本学区は南に遠州灘、西に愛知県境が隣接し、江戸時代には、東海道32番目の白須賀宿で遠江の国の西の玄関口でありました。現在、学校の周囲には赤土の畑が広がり、ジャガイモやダイコン、キャベツなどが収穫され、野鳥の鳴き声がこだまする自然豊かな土地にあります。



本校校舎正面より撮影

2 活動のねらい

本校は令和6年で創立152年目を迎え、全校児童数は年々減少し、それに伴ってPTA会員数も減少しています。そのため、会員はかなりの確率で役員をやらなければならず、地区によっては複数回役員になる保護者もあり、コロナ禍においては、経済が停滞する中で仕事を休んでPTA活動を行うことは、保護者にとって大きな負担でした。そこでPTA活動を持続可能な活動にしていくことが喫緊の課題となっていました。

3 活動の内容

PTA活動を持続可能にしていくために次の2つのことに取り組みしました。(1) 組織のスリム化(表1)・保護者参加行事の精選、(2) 各活動のボランティア募集です。組織をスリム化して、役員の人数自体を減らしたり、参加行事の精選をしたりすることで保護者の負担を減らしました。その分、参加可能な保護者や地域の方がボランティアとして参加をしてもらい、運営がスムーズにいくようにすることで、持続可能なPTA活動になるように工夫しました。

(1) 組織のスリム化 ・保護者参加行事の精選

令和5年度までの体制は、本部役員5人、地区委員15人(専門部委員会13人・会計監査委員2人：地区委員と兼任)の20人体制でした。地区委員と専門部委員会を兼務することで、一人に係る負担が大きくなったり、既に兄姉が在校時に役員を経験したりして複数回役員をやったりして保護者の負担が大きくなっていました。そこで、役員を本部役員(5人)のみとし、組織のスリム化を図ることで保護者の負担を軽減するようにしました。

また、以前はPTAの役員になると、常任委員会や運営委員会といった各種会合、委員会ごとに奉仕作業や学校保健委員会、共同調理場委員会、持久走大会監察、授業参観会写真撮影や運動会の写真撮影を行いPTA新聞を年間2回発行、会計監査というように本部役員はもちろんのこと、地区役員(専門部委員会)も年間を通して参加行事がありました。その行事を本部役員に割り振りながら、保護者や地域の方からボランティアを募集するという方式に変えるようにしました。

表1 PTA組織改編前と改編(スリム化)後

R5体制 (20人)			R6体制 (5人)		
	役職	人数		役職	人数
本部役員	会長	1	本部役員	会長	1
	筆頭副会長	1		筆頭副会長	1
	副会長	1		副会長	1
	会計兼副会長	1		会計兼副会長	1
	書記	1		書記	1
地区役員	1区	1	地区役員	会計監査委員	2
	2区	2			
	3区	4			
	4区	3			
	5区	3			
	6区	2			
専門部委員会	安全施設委員会	4			
	体育給食委員会	5			
	成人教育委員会	4			
	会計監査委員	2			

(2) 各種ボランティアの募集

令和5年度は試行で運動会の城落としての準備と片付け・安全確保、奉仕作業、持久走大会の監察のボランティアを募集してみました。メール配信アプリを活用して全校に通知し、その返信機能を使って人数の確認を行いました。募集人数に満たない場合には、複数回通知を出し、必要な人員を集めるようにしました。さらに、奉仕作業は、地元のNPO法人シラスカリフォルニアさん（湖西市白須賀の美しい自然を保護し、地域の活性化を促進することを使命とし、地元のコミュニティと連携し、持続可能な未来を築くために様々なプロジェクトに取り組んでいる。＜活動目的：HPより＞）にも声を掛け参加をお願いしました。

令和6年度は昨年度の募集に加え、読み聞かせ、町探検引率、家庭科(裁縫、ミシン)、運動会駐車場の各ボランティアを募集し、保護者が参加してくれました。また、今後、シラスカリフォルニアさんにビオトープの池の清掃のお願いやおもちゃづくり、鉢植え、書き初めの各ボランティアを募集予定です。さらに、7月に行った白須賀地区民生委員との交流の際に、民生委員から地域の方にもボランティアへの参加を呼び掛けるから、何かボランティア募集があった際には、私たちにも連絡してほしいと言っていました。連絡がすぐできるようにメール配信アプリに登録をしていただき、まずは下校見守りボランティアへの参加を呼び掛けていただきました。

4 成果と課題

組織をスリム化することで保護者の負担を減らすことができたことは成果です。その一方で保護者だけではボランティアの数が十分でないという課題が生じました。そこで、民生委員を通して地域の方を巻き込むことができる体制ができました。白須賀の子供たちを、学校、保護者、そして、地域住民と一緒に育てていく体制ができつつあることも成果であると考えます。保護者にも、地域住民にも「無理なく・無駄なく・難しくなく」学校行事や各種ボランティアに参加してもらうように声掛けをしています。このような運営を心掛けることで、児童数や家庭数が減少しても持続可能なPTA活動になっていくと考えています。

PTA活動の見える化

浜松市立浜北北部中学校 PTA会長 馬 塚 孝 雅

1. はじめに

昭和36年に中瀬中学校と赤佐中学校の統合により浜北町立北部中学校として設立され、平成17年の市町村合併を受けて「浜松市立浜北北部中学校」に校名を変更しました。浜松市の北部に位置し、令和6年度で創立61年目を迎えました。635名の生徒が在籍し、各学年6クラス編成の中規模校です。

2. 活動のねらい

昨今PTA離れがニュースに流れ、保護者から敬遠される存在になりつつあります。「面倒くさい」「大変」「何やっているか解からない」と言った否定的な意見を多く聞くのが現状です。

私共は、このマイナスのイメージを少しでも払拭することを課題にかけ、昨年度の役員と一貫した「PTA活動の見える化」を目標に取り組みました。

令和5年度のPTA活動では、保護者の方にPTAを知ってもらう事・興味をもってもらう事を念頭に、PTA活動のアンケート調査やリユース活動、挨拶運動、学校行事のお手伝い、役員会の見学会など、保護者に向けた活動の見える化を実施しました。

令和6年度では5年度実施した保護者への見える化を維持しつつ、新たに生徒たちへの見える化に取り組みました。PTAはどのような組織なのか、その組織が中学生の生徒たちへどのようなサポートを行っているのか、知ってもらう事に重点を置き活動を進めました。



挨拶運動

3. 活動の内容

① 学校生活の把握

まず始めに学校の協力を得て、生徒たちと話し合いの場を設けました。話し合いの内容としては、「学校生活で困っていること、足りないもの、欲しいもの」など、生徒会を柱にアンケート調査を実施しました。

冷水機の不足	各教室の窓に網戸がほしい	鏡がほしい	自販機がほしい	トイレのリフォーム
貸し出し傘・貸し出し合羽（急な雨）	空気清浄機	ミスト環境（夏場）	公衆電話を直してほしい	
体育館・武道館にも冷房がほしい	体育館のカーテンが、穴が空いていてボロボロ	図書室の本		
タブレット用のマウス・タッチペン	インターネットの接続環境（タブレットが接続しにくい）			
各教室に鉛筆削りがほしい	クラスの時計が見にくい	廊下にも時計がほしい		

様々な意見の中で、冷水機が不足している声が多く見えてきました。

②アルミ缶回収から生まれる収益金

以前からアルミ缶回収の実態はあったものの、どのようにリサイクルされ、どのように収益となっているのか、改めてアルミ缶回収の意図を生徒たちへ伝えました。「お金が無いと物は買えない！」あたり前の話ですが、10円・100円の大切さを学びました。

③冷水機を新たに2台設置

過去の収益も含めながら、アルミ缶回収の収益金を使って新たに2台の冷水機を設置することができました。生徒たちが中心となって実施したアルミ缶回収の努力が、形として還元できたことは良かったと思います。また生徒たちからも喜びの声を聴くようになりました。

④生徒たちが表彰を受けました

アルミ缶回収の実績が評価され、アルミ缶リサイクル協会より表彰を受けました。今では回収率も益々上昇し、今まで以上に学校と生徒と保護者が一体となりつつあるように思います。



アルミ缶回収

4. 成果と課題

令和6年度のPTA活動は、生徒たちへの見える化にチャレンジしてみました。

生徒たち自身が興味を持ちがんばった成果が形として表現できたこと、またリサイクルへの意識やアルミ缶回収の意欲が高まったことが良かったと思います。その他にもリユース活動や挨拶運動、学校行事のお手伝いなど、無理なく活動の維持ができました。

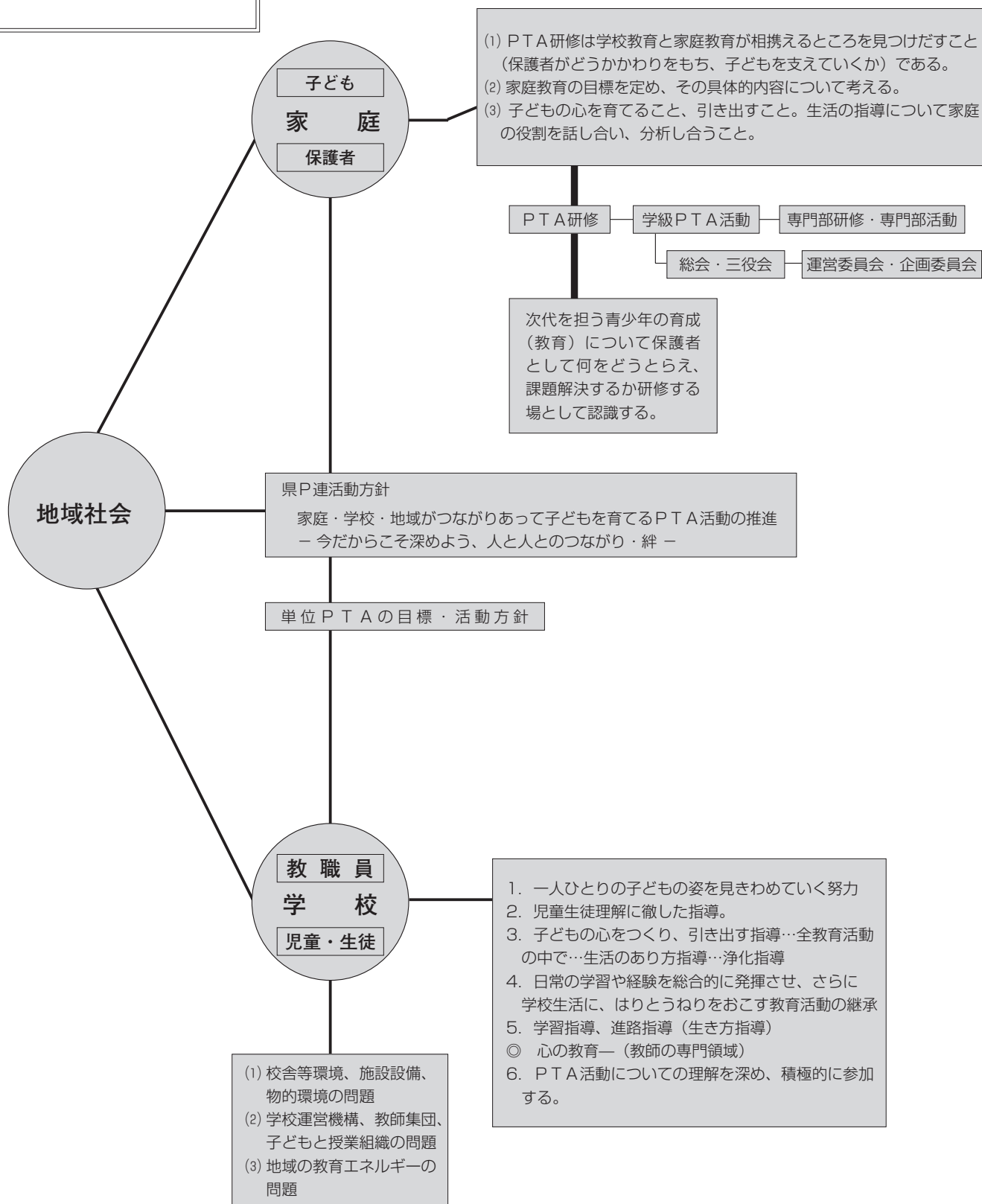
次年度のPTA役員には、一貫して取り組んできた活動の実績と課題を糧に、今後のPTA活動へ繋げていってほしいと思います。また生徒たちには、今年度の実績を自信に繋げ、地球環境SDGsへの意識向上となれうれしく思います。



表彰の様子

家庭・学校・地域 社会が連携して、 子どもを育てる

1. 子どもの心身の育成（体験・指導等による）
2. 子どもを守る（犯罪・交通・事故等から）



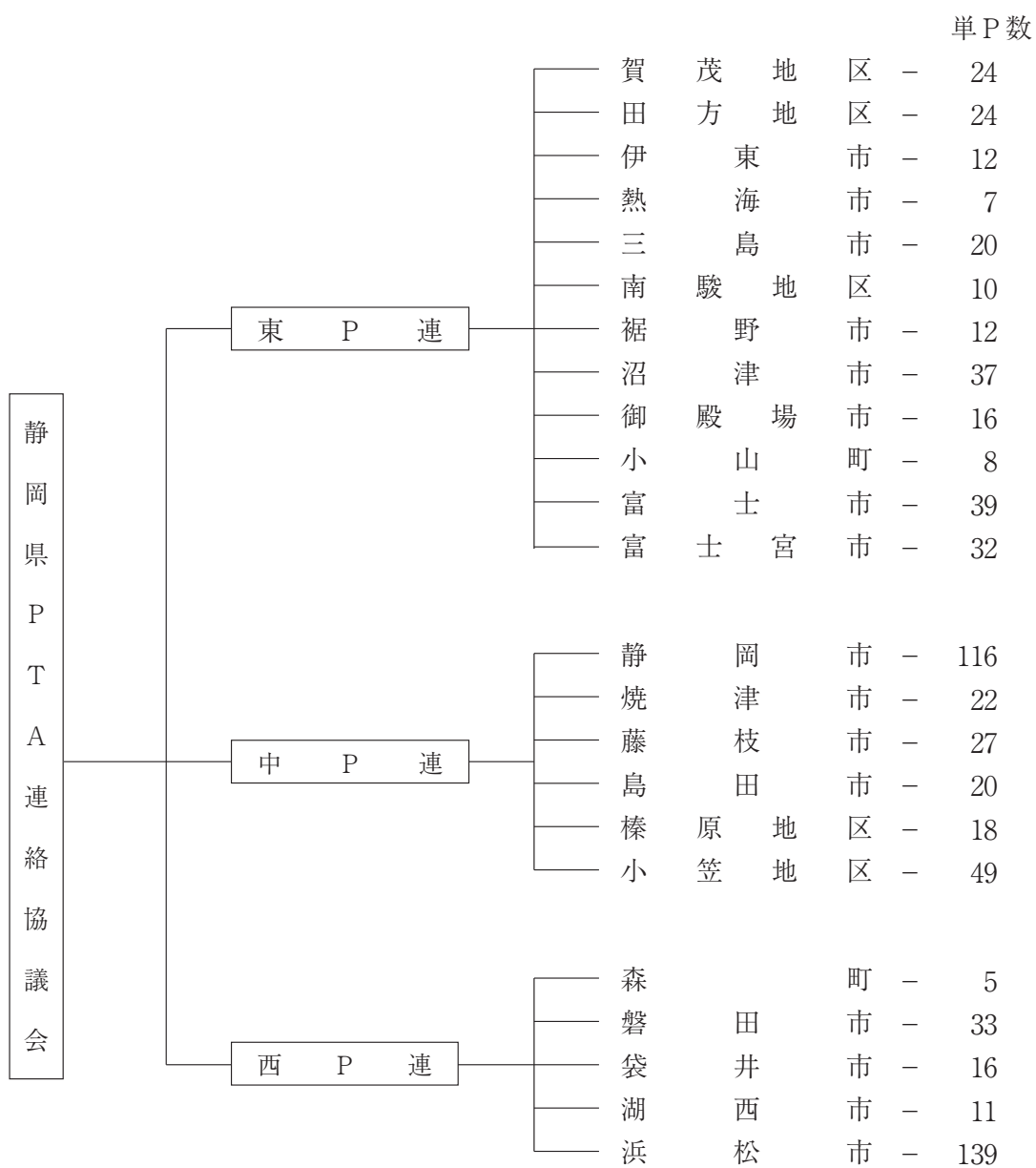


静岡県 PTA

県P連は、23地区P連で組織されています。

令和7年度

— 組 織 図 —



令和7年度単P数（計 697）

研修資料「話し合い」 第68号

令和7年5月30日 発行

編 集 静岡県PTA連絡協議会事務局

発 行 静岡市葵区駿府町1-12

静岡県教育会館4F

静岡県PTA連絡協議会

TEL 054-252-8223

FAX 054-251-9672

印 刷 静岡市葵区流通センター12番1号

大日三協(株)

TEL 054-263-2435

FAX 054-263-2409